

## 列王記第二

1 アハブの死後、モアブはイスラエルに背いた。

2 アハズヤはサマリアにある屋上の部屋の格子から落ちて、病気になった。そこで彼は使者たちを遣わし、彼らに「行って、エクロンの神バアル・ゼブブに、わたしがこの病気から回復するかどうかを伺え」と言った。

3 しかし主\*の使いはティシュベ人エリヤに言った。「立って、サマリアの王の使者たちを迎えに上って行き、彼らに言え。『あなたがたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がないからなのか。』」

4 それゆえ今、主はこう言われる。「あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。」』」そしてエリヤは去って行った。

5 使者たちが彼のもとに帰って来たので、彼は彼らに「なぜ帰って来たのか」と言った。

6 彼らは彼に言った。「一人の男がわれわれを迎えに上って来て、われわれに言いました。『行って、あなたがたを遣わした王のところに帰り、彼に言え。「主はこう言われる。『あなたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てるために人を遣わすのは、イスラエルに神がないからなのか。それゆえ、あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。』』』」

---

\* 1:31:3 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来てい

7 彼は彼らに言った。「あなたがたを迎えに上って来て、これらの言葉を語ったのは、どのような男だったのか。」

8 彼らは彼に答えた。「毛深い男で、腰に革の帯を締めていました。」

彼は言った。「それはティシュベ人エリヤだ。」

9 そこで王は五十人の長と、その五十人の部下をエリヤのもとに遣わした。五十人の長がエリヤのもとに上って行くと、見よ、彼は丘の頂に座っていた。その長はエリヤに言った。「神の人よ、王が『下って来い』と言っておられる。」

10 エリヤは五十人の長に答えて言った。「もしわたしが神の人であるなら、天から火が下り、あなたとあなたの五十人を食い尽くすように！」すると天から火が下り、彼とその五十人を食い尽くした。

11 王は再び、別の五十人の長と、その五十人の部下をエリヤのもとに遣わした。その長はエリヤに言った。「神の人よ、王はこう言っておられる。『急いで下って来い!』」

12 エリヤは彼らに答えて言った。「もしわたしが神の人であるなら、天から火が下り、あなたとあなたの五十人を食い尽くすように！」すると神の火が天から下り、彼とその五十人を食い尽くした。

13 王は再び、三番目の五十人の長と、その五十人の部下を遣わした。三番目の五十人の長は上って行き、エリヤの前に来てひざまずき、彼に懇願して言った。「神の人よ、どうか、わたしの命と、あなたのしもべであるこの五十人の命を、あなたの御目に尊いものとしてください。」

14 見よ、天から火が下り、前の二人の五十人の長とその五十人の部下を食い尽くしました。し

かし、今、わたしの命をあなたの御目に尊いものとしてください。」

15 主の使いはエリヤに言った。「彼と一緒に下って行きなさい。彼を恐れてはならない。」そこで彼は立ち上がり、彼と一緒に王のところへ下って行った。

16 彼は王に言った。「主はこう言われる。『あなたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てるために使者たちを遣わしたのは、イスラエルにはその言葉を伺う神がないからなのか。それゆえ、あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。』」

17 こうして、エリヤが語った主の言葉のとおり、彼は死んだ。彼には息子がいなかったのので、ユダの王ヨシャファテの息子エホラムの第二年に、エホラムが彼に代わって王となった。

18 アハズヤが行ったその他の事績は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

## 2

1 主がエリヤをつむじ風で天へ上げようとされたとき、エリヤはエリシャとともにギルガルから出て行った。

2 エリヤはエリシャに言った。「どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをベテルまで遣わされたからだ。」

エリシャは言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼らはベテルへ下って行った。

3 ベテルにいた預言者の子らがエリシャのところに出て来て、彼に言った。「主が今日、あなたの上からあなたの主人を取り去られることを、あなたは知っているか。」

彼は言った。「そうだ、わたしは知っている。黙っていないさい。」

4 エリヤは彼に言った。「エリシャよ、どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをエリコに遣わされたからだ。」

彼は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼らはエリコに来た。

5 エリコにいた預言者の子らがエリシャに近づいて、彼に言った。「主が今日、あなたの上からあなたの主人を取り去られることを、あなたは知っているか。」

彼は答えた。「そうだ、わたしは知っている。黙っていないさい。」

6 エリヤは彼に言った。「どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをヨルダン川に遣わされたからだ。」

彼は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼ら二人は進んで行った。

7 預言者の子らの中から五十人の男が行って、彼らに向かい合う遠く離れた所に立った。彼ら二人はヨルダン川のそばに立った。

8 エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると水はあちらとこちらに分かれ、彼ら二人は乾いた地を渡って行った。

9 彼らが渡った後、エリヤはエリシャに言った。「わたしがあなたから取り去られる前に、わたしがあなたのために何をすべきか求めなさい。」

エリシャは言った。「どうか、あなたの霊の二倍の分け前がわたしの上にありますように。」

10 彼は言った。「あなたは難しいことを求めた。わたしがあなたから取り去られるときに、あな

たがわたしを見るなら、あなたにとってそのようになるだろう。しかし、そうでないなら、そのようにはならない。」

11 彼らがお進みながら話していると、見よ、火の戦車と火の馬が現れ、彼ら二人を引き離れた。そしてエリヤはつむじ風で天へ上って行った。

12 エリシャはそれを見て、「わが父よ、わが父よ。イスラエルの戦車とその騎兵たちよ！」と叫んだ。

彼はもはや彼を見ることはなかった。彼は自分の服をつかみ、それを二つに引き裂いた。

13 彼はまた、エリヤから落ちた外套を拾い上げ、戻って行ってヨルダン川の岸辺に立った。

14 彼はエリヤから落ちた外套を取り、水を打って言った。「エリヤの神、主はどこにおられるのか。」そう言って彼が水を打つと、水はあちらとこちらに分かれ、エリシャは渡って行った。

15 彼の向かいのエリコにいた預言者の子らが彼を見たとき、彼らは「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言った。彼らは彼を迎えに来て、彼の前で地にひれ伏した。

16 彼らは彼に言った。「見よ、今、あなたのしもべたちとともに五十人の力強い男たちがいます。どうか、彼らを行かせて、あなたの主人を探させてください。もしかすると主の霊が彼を連れ上げ、どこかの山の上か、どこかの谷に投げ捨てたかもしれません。」

彼は言った。「彼らを遣わしてはならない。」

17 彼らが恥じ入るほど彼に強く勧めたので、彼は「遣わすがよい」と言った。そこで彼らは五十人の男を遣わし、三日間探したが、彼を見つけることはできなかった。

18 彼がエリコにとどまっている間に、彼らは彼のもとに帰って来た。彼は彼らに言った。「『行くな』とあなたがたに言ったではないか。」

19 その町の人々がエリシャに言った。「見よ、わが主君がご覧のように、この町の状況は良いのですが、水は悪く、地は不毛です。」

20 彼は言った。「新しい壺をわたしのところに持って来て、そこに塩を入れなさい。」彼らはそれを彼のところに持って来た。

21 彼は水の泉へ出て行き、そこに塩を投げ入れて言った。「主はこう言われる。『わたしはこの水をいやした。ここから死や不毛が生じることは、もはやない。』」

22 エリシャが語った言葉のとおり、水はいやされて今日に至っている。

23 彼はそこからベテルへ上って行った。彼が道を上っていると、町から若者たちが出て来て、彼をあざけって言った。「上って行け、はげ頭。上って行け、はげ頭。」

24 彼は後ろを振り向いて彼らを見、主の御名によって彼らを呪った。すると森から二頭の雌熊が出て来て、彼らのうち四十二人の若者をかき裂いた。

25 彼はそこからカルメル山へ行き、そこからサマリアへ帰った。

### 3

1 ユダの王ヨシャファテの第十八年に、アハブの息子エホラムがサマリアでイスラエルを治め始め、十二年間統治した。

2 彼は主の御目に悪であることを行なったが、彼の父や彼の母のようではなかった。彼は父が造ったバアルの柱を取り除いたからである。

3 それでも彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪に固く結びつき、そこから離れなかった。

4 さて、モアブの王メシャは羊を飼う者であった。彼はイスラエルの王に、十万匹の子羊と十万頭の雄羊の羊毛を納めていた。

5 しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。

6 その時、エホラム王はサマリアから出て行き、全イスラエルを召集した。

7 彼は行ってユダの王ヨシャファテのところに人を遣わして言った。「モアブの王がわたしに背いた。あなたはわたしと一緒にモアブへ戦いに行くか。」

彼は言った。「わたしは上って行く。わたしはあなたと同じであり、わたしの民はあなたの民と同じであり、わたしの馬はあなたの馬と同じである。」

8 彼は言った。「どの道を上って行こうか。」

彼は答えた。「エドムの荒野の道である。」

9 こうしてイスラエルの王、ユダの王、そしてエドムの王は出発した。彼らは七日間の道のりを回り道して行った。その軍勢のためにも、彼らに従う家畜のためにも水がなかった。

10 イスラエルの王は言った。「ああ、主はこの三人の王を呼び集めて、彼らをモアブの手に引き渡されるのか。」

11 しかしヨシャファテは言った。「ここには、われわれが彼を通して主に伺いを立てることができるような主の預言者がいないのか。」

イスラエルの王のしもべの一人が答えて言った。「ここには、エリヤの手に水を注いだ、シャファテの息子エリシャがいます。」

12 ヨシヤファテは「主の言葉は彼とともにある」と言った。そこでイスラエルの王とヨシヤファテ、およびエドムの王は彼のところへ下って行った。

13 エリシャはイスラエルの王に言った。「わたしがあなたと何のかかわりがあるのか。あなたの父の預言者たちと、あなたの母の預言者たちのところへ行きなさい。」

イスラエルの王は彼に言った。「いや、主はこの三人の王を呼び集めて、彼らをモアブの手に引き渡されるからだ。」

14 エリシャは言った。「わたしがその御前に立っている万軍の主は生きておられる。確かに、もしわたしがユダの王ヨシヤファテに敬意を払っていなかったなら、わたしはあなたに目を向けることも、あなたを見ることもなかっただろう。

15 しかし今、楽人をわたしのところに連れて来なさい。」

楽人が奏でたとき、主の御手が彼の上に臨んだ。

16 彼は言った。「主はこう言われる。『この谷を溝でいっぱいにせよ。』

17 主はこう言われるからである。『あなたがたは風を見ることもなく、雨を見ることもないが、その谷は水で満たされる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、他の動物たちも飲むであろう。』

18 これは主の御目には簡単なことである。主はモアブ人をもあなたがたの手に引き渡される。

19 あなたがたはすべての防備の町とすべての良い町を打ち、すべての良い木を切り倒し、すべての水の泉をふさぎ、すべての良い土地を石で台無しにするであろう。」

20 朝になり、ささげ物をささげるころ、見よ、エドムの道から水が流れて来て、その地は水で満たさ

れた。

21 さて、すべてのモアブ人は王たちが自分たちと戦うために上って来たことを聞き、武器を身に着けられる者を若い者から年長者まで皆集め、国境に立った。

22 彼らが朝早く起きると、太陽が水の上に輝いており、モアブ人は向かいにある水が血のように赤いのに気づいた。

23 彼らは言った。「これは血だ。王たちは確かに滅ぼされ、互いに打ち合ったのだ。それなら今、モアブよ、略奪だ！」

24 彼らがイスラエルの陣営に来ると、イスラエル人は立ち上がってモアブ人を打ったので、彼らは彼らの前から逃げた。彼らはさらに進んでモアブ人を打ちながらその地に入った。

25 彼らは町々を打ち壊し、すべての良い土地に各自が自分の石を投げてそれを満たした。彼らはまたすべての水の泉をふさぎ、すべての良い木を切り倒した。キル・ハレセテでは石だけが残ったが、石投げを持った者たちがそれを取り囲んで打った。

26 モアブの王は戦いが自分にとって激しすぎるのを見ると、エドムの王のところへ突破するために、剣を抜く七百人の男たちを自分とともに引き連れたが、彼らはできなかつた。

27 それから彼は自分の代わりに王となるはずであった長男を取り、城壁の上で彼を全焼のささげ物としてささげた。イスラエルに対して激しい怒りが起こり、彼らは彼から離れ去り、自分たちの地へ帰った。

## 4

1 預言者の子らの妻の一人がエリシャに叫ん

で言った。「あなたのしもべであるわたしの夫は死にました。あなたのしもべが主を恐れる者であったことは、あなたのご存じです。しかし債権者が来て、わたしの二人の子どもを自分の奴隷にしようとしています。」

<sup>2</sup> エリシャは彼女に言った。「わたしはあなたのために何をしようか。あなたの家に何があるか、わたしに告げなさい。」

彼女は言った。「あなたのはしための家には、油の壺一つのほか、何也没有せん。」

<sup>3</sup> 彼は言った。「外に出て、すべての隣人から空の器を借りなさい。少しだけにしてはならない。

<sup>4</sup> あなたは中に入り、あなたと息子たちの後ろで戸を閉め、それらすべての器に油を注ぎ入れなさい。そして、いっぱいになったものはわきに置きなさい。」

<sup>5</sup> そこで彼女は彼から去り、自分と息子たちの後ろで戸を閉めた。彼らが彼女に器を持ってくると、彼女は注ぎ入れた。

<sup>6</sup> 器がいっぱいになったとき、彼女は息子に言った。「器をもう一つ持ってきなさい。」

彼は彼女に、「器はもうありません」と言っただ。すると、油は止まった。

<sup>7</sup> それから彼女は来て、神の人に告げた。彼は言った。「行って、油を売り、あなたの負債を払いなさい。そして、あなたとあなたの息子たちは、残ったもので生活しなさい。」

<sup>8</sup> ある日、エリシャはシュネムへ渡って行った。そこには有力な女がいて、彼に食事をするよう強く勧めた。それで、彼はそこを通り過ぎるたびに、食事をするためにそこに立ち寄った。

9 彼女は夫に言った。「見よ、わたしたちのところをいつも通り過ぎるこの人は、聖なる神の人だとわたしにはわかります。

10 どうか、屋上に壁のある小さな部屋を造りましょう。そこに彼のために寝台、机、椅子、ともしび台を置きましょう。そうすれば、彼がわたしたちのところに来たとき、そこに泊まることができません。」

11 ある日、彼はそこに来て、その部屋に入り、そこで横になった。

12 彼はしもベゲハジに言った。「このシュネムの女を呼んでくれ。」彼が彼女を呼ぶと、彼女は彼の前に立った。

13 エリシャはゲハジに言った。「今、彼女に言いなさい。『見よ、あなたはこのように細やかにわれわれの世話をしてくれた。わたしはあなたのために何をすべきか。王や軍の長に取り次いでほしいことがあるか。』」

彼女は答えた。「わたしは自分の民の間に住んでいます。」

14 彼は言った。「それでは、彼女のために何をすべきか。」

ゲハジは答えた。「確かに、彼女には息子がなく、夫は年老いています。」

15 彼は言った。「彼女を呼んでくれ。」彼が彼女を呼ぶと、彼女は戸口に立った。

16 彼は言った。「来年のこの時期に、あなたは息子を抱くであろう。」

彼女は言った。「いいえ、わが主君、神の人よ。あなたのはしためを欺かないでください。」

17 女は身ごもり、エリシャが彼女に言ったとおり、次の年のその時期に息子を産んだ。

18 子どもが大きくなったある日、彼は刈り入れをする者たちのところにいる父のもとへ出て行った。

19 彼は父に「頭が、わたしの頭が!」と言った。

父はしもべに、「彼を母親のところ連れて行け」と言った。

20 彼がその子を連れて母親のところ連れて来ると、子どもは昼まで彼女のひざの上に座っていたが、死んでしまった。

21 彼女は上って行き、彼を神の人の寝台の上に寝かせ、彼の後ろで戸を閉めて出て行った。

22 彼女は夫を呼んで言った。「どうか、しもべ一人と、ろば一頭をわたしのところに送ってください。わたしが神の人のところへ急いで行き、また戻って来られるように。」

23 彼は言った。「なぜ今日、彼のところへ行くのか。新月でも安息日でもないのに。」

彼女は言った。「大丈夫です。」

24 そこで彼女はろばに鞍を置き、しもべに言った。「進め、急ぎなさい。わたしが命じない限り、わたしのために速度を緩めてはならない。」

25 そこで彼女は出発し、カルメル山の神の人のところへ来た。神の人が遠くから彼女を見たとき、彼はしもべゲハジに言った。「見よ、あのシュネムの女だ。」

26 今、走って彼女を迎えに行き、彼女に『あなたは無事か。あなたの夫は無事か。子どもは無事か』と言いなさい。」

彼女は答えた。「無事です。」

27 彼女は山の神の人のところ来ると、彼の足にすがりついた。ゲハジが彼女を引き離そうと近づいたが、神の人は言った。「彼女をそのままにしてお

け。彼女の魂は苦しんでいるからだ。主はそれをわたしから隠し、わたしに告げられなかった。」

28 すると彼女は言った。「わたしがわが主君に息子を求めたでしょうか。『わたしを欺かないでください』とわたしは言わなかったでしょうか。」

29 そこで彼はゲハジに言った。「裾を帯にはさみ、わたしの杖を手を持って行きなさい。だれかに会っても挨拶をしてはならない。だれかがあなたに挨拶をしても答えてはならない。そしてわたしの杖を子どもの顔の上に置きなさい。」

30 子どもの母は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」そこで彼は立ち上がり、彼女の後に従った。

31 ゲハジは彼らより先に行き、杖を子どもの顔の上に置いたが、声もなく、聞く様子もなかった。それゆえ彼は引き返してエリシャに会い、「子どもは目を覚ましません」と彼に告げた。

32 エリシャが家に入ると、見よ、子どもは死んで彼の寝台に横たわっていた。

33 彼は中に入り、二人だけになるように戸を閉め、主に祈った。

34 彼は上って子どもの上に横たわり、自分の口を彼の口の上に、自分の目を彼の目の上に、自分の手を彼の手の上に置き、彼の上に身を伸ばした。すると子どもの肉は温かくなった。

35 それから彼は戻って、家の中を一度あちらこちらへと歩き、上って行って彼の上に身を伸ばした。すると子どもは七回くしゃみをし、子どもは目を開いた。

36 彼はゲハジを呼んで、「あのシュネムの女を呼んでくれ」と言った。そこで彼は彼

女を呼んだ。彼女が彼のもとに来たとき、彼は「あなたの息子を取りなさい」と言った。

37 そこで彼女は入り、彼の足もとにひれ伏し、地に身をかがめた。そして彼女は息子を取り、出て行った。

38 エリシャはギルガルに戻った。その地にはききんがあった。預言者の子らが彼の前に座っていた。彼は自分のしもべに「大きな鍋を火にかけ、預言者の子らのために煮物を作りなさい」と言った。

39 一人が野草を摘むために野に出て行き、野生のつる草を見つけ、それから野生のひょうたんを自分の上着いっぱい集めた。彼は戻って来て、それらを切り刻んで煮物の鍋に入れた。彼らはそれが何であるか知らなかったからである。

40 そこで彼らは、人々が食べるためにそれを注ぎ出した。彼らが煮物を食べていたとき、彼らは叫んで言った。「神の人よ、鍋の中に死があります！」彼らはそれを食べるができなかった。

41 しかし彼は、「麦粉を持ってきなさい」と言った。彼はそれを鍋の中に投げ入れ、「民が食べるために注ぎ出しなさい」と言った。そして鍋の中には有害なものは何もなくなった。

42 ある男がバアル・シャリシャから来て、初穂のパンとして大麦のパン二十個と、袋に入った新鮮な穀物の穂を添えて神の人のもとに持って来た。彼は、「民が食べるために与えなさい」と言った。

43 彼のしもべは言った。「どうしてこれを百人の男の前に出せましょうか。」

しかし彼は言った。「民が食べるために与えなさい。主はこう言われるからである。『彼らは食べ、しかも残すであろう。』」

44 そこで彼は彼らの前にそれを出し、主の言葉とおりに彼らは食べ、しかも残した。

## 5

<sup>1</sup> アラムの王の軍の長ナアマンは、その主君の前に大いなる男であり、重んじられていた。主が彼によってアラムに勝利を与えられたからである。彼は力ある勇士でもあったが、規定の病に冒されていた。

<sup>2</sup> アラム人は略奪隊として出て行き、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえてきていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。

<sup>3</sup> 彼女は女主人に言った。「わたしの主人がサマリアにいる預言者のところに行けたらよいのに。そうすれば、彼は主人の規定の病をいやしてくれるでしょう。」

<sup>4</sup> ある者が入って来てその主君に告げて言った。「イスラエルの地から来た娘は、かくかくしかじかに言いました。」

<sup>5</sup> アラムの王は言った。「行きなさい。わたしもイスラエルの王に手紙を送ろう。」彼は銀十タラント\*、金六千枚、それに十着の着替えを持って出発した。

<sup>6</sup> 彼はイスラエルの王に手紙を持って行った。その手紙にはこう書かれていた。「さて、この手紙があなたに届くとき、見よ、わたしはしもベナアマンをあなたのもとに遣わした。あなたが彼の規定の病をいやしてくれるためである。」

<sup>7</sup> イスラエルの王はその手紙を読むと、自分の服を引き裂いて言った。「わたしは、人を殺したり生かしたりする神なのか。あの王は、人の規定の病をいやすようにと、わたしのところに人を遣わしてきた。どうか、彼がわたしに言いがかりをつけようとしていることを、よく考え、見極めてほしい。」

---

\* 5:5 5:5 一タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。

8 神の人エリシャは、イスラエルの王が服を引き裂いたことを聞くと、王に人を遣わして言った。「なぜあなたは服を引き裂いたのですか。彼をわたしのところに来させてください。そうすれば、彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」

9 そこでナアマンは馬と戦車とともに来て、エリシャの家の戸口に立った。

10 エリシャは彼に使者を遣わして言った。「行って、ヨルダン川で七回身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉は元通りになり、あなたはきよくなる。」

11 しかしナアマンは怒って去り、そして言った。「見よ、わたしは『彼は必ずわたしのところに出て来て立ち、彼の神、主の御名を呼び、手を患部の上で振って、規定の病の者をいやすだろう』と思っていた。」

12 ダマスコの川であるアバナやパルパルは、イスラエルのすべての水よりも良いではないか。わたしはそれらの中で身を洗い、きよくなることができないうのか。」こうして彼は向きを変え、怒って去って行った。

13 彼のしもべたちは近づいて彼に語って言った。「わが父よ。もし預言者があなたに何か大きなことを命じたなら、あなたはなされたではありませんか。まして彼があなたに、『身を洗え。そうすればきよくなる』と言っただけなら、なおさらではありませんか。」

14 そこで彼は下って行き、神の人の言葉にしたがって、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼の肉は幼い子どもの肉のように元通りになり、彼はきよくなった。

15 彼は供の者たち皆とともに神の人のところに戻り、来て彼の前に立って言った。「見よ、今わたしは、イスラエルのほかに全地に神がないことを知りました。ですから今、どうかあなたのしもべから贈り物を受け取ってください。」

16 しかし彼は言った。「わたしがその御前に立っている主は生きておられる。わたしは受け取らない。」彼は彼に受け取るようにと強く勧めたが、彼は拒んだ。

17 ナアマンは言った。「そうされないのですから、どうかあなたのしもべに、ろば二頭分の土を与えてください。あなたのしもべは今後、主以外の他の神々に全焼のささげ物やいけにえをささげることはしないからです。」

18 この事において主があなたのしもべを赦してくださいますように。わたしの主君がリモンの家に入ってそこで拝み、彼がわたしの手によりかかり、わたしもリモンの家で身をかがめるとき、わたしがリモンの家で身をかがめるときに、この事について主があなたのしもべを赦してくださいますように。」

19 彼は彼に、「平安のうちに行きなさい」と言った。こうして彼は彼から少しの道のりを去って行った。

20 しかし神の人エリシャのしもべゲハジは言った。「見よ、わたしの主人はこのアラム人ナアマンを見逃して、彼が持ってきたものを彼の手から受け取らなかった。主は生きておられる。わたしは彼の後を走って行き、彼から何かをもらってこよう。」

21 そこでゲハジはナアマンの後を追った。ナアマンは彼が自分の後を走って来るのを見ると、戦車から下りて彼を迎え、「無事か」と言った。

22 彼は言った。「無事です。わたしの主人がわたしを遣わしてこう言いました。『見よ、今、エフライムの山地から預言者の子らの二人の若者がわたしのところに来た。どうか彼らに、銀一タラントと二着の着替えを与えてほしい。』」

23 ナアマンは、「どうか、二タラントを受け取ってくれ」と言った。彼は彼に強く勧め、二タラントの銀を二つの袋に縛り入れ、二着の着替えとともに二人のしもべに載せた。彼らはゲハジの前でそれらを運んだ。

24 ゲハジが丘に着くと、彼は彼らの手からそれらを取り、家の中にしまい込んだ。そして彼は男たちを去らせ、彼らは去って行った。

25 それから彼は入って行き、主人の前に立った。エリシャは彼に言った。「ゲハジ、どこから来たのか。」

彼は「あなたのしもべはどこへも行きませんでした」と言った。

26 彼は彼に言った。「あの男があなたに会うために戦車から向きを変えたとき、わたしの心はあなたとともに行かなかっただろうか。今は、銀を受け取ったり、衣服、オリーブ畑、ぶどう畑、羊、牛、あるいは男女の奴隷を受け取ったりする時だろうか。」

27 それゆえ、ナアマンの規定の病があなたと、あなたの子孫<sup>†</sup>にとこしえにまといつくように。」そして彼は、雪のような規定の病の者となって彼の前から出て行った。

## 6

1 預言者の子らはエリシャに言った。「見よ、われわれがあなたとともに住んでいる場所は、われわれ

<sup>†</sup> 5:27 5:27 または「種」。

れには狭すぎます。

<sup>2</sup> どうか、ヨルダン川へ行かせてください。それぞれがそこから梁を取り、われわれが住むための場所をそこに造りましょう。」

彼は答えた。「行きなさい。」

<sup>3</sup> 一人が「どうか、あなたのしもべたちと一緒に行ってください」と言った。

彼は「わたしも行こう」と答えた。

<sup>4</sup> そこで彼は彼らとともに行った。彼らがヨルダン川に来たとき、彼らは木を切り倒した。

<sup>5</sup> しかし一人が梁を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちた。すると彼は叫んで、「ああ、わが主君よ。それは借り物だったので」と言った。

<sup>6</sup> 神の人は尋ねた。「それはどこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、彼は木の枝を切り取り、それをそこに投げ入れて、その鉄を浮かばせた。

<sup>7</sup> 彼は「それを取りなさい」と言った。そこで彼は手を伸ばしてそれを取った。

<sup>8</sup> さて、アラムの王はイスラエルと戦っていた。彼は自分のしもべたちと協議して、「わたしの陣はこれこれの場所に張る」と言った。

<sup>9</sup> 神の人はイスラエルの王に人を遣わして言った。「その場所を通り過ぎないように注意しなさい。アラム人がそこに下って来るからです。」

<sup>10</sup> イスラエルの王は、神の人が彼に告げ、彼に警告した場所へ人を遣わした。そして彼はそこで警戒した。それは一度や二度のことではなかった。

<sup>11</sup> アラムの王の心はこの事のためにひどく動揺した。彼は自分のしもべたちを呼んで、彼らに言った。「われわれのうちのだれがイスラエルの王の味方なのか、わたしに示してくれないか。」

12 彼のしもべの一人が言った。「いいえ、わが君、王よ。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室で語られる言葉を、イスラエルの王に告げているのです。」

13 彼は言った。「行って、彼がどこにいるか見なさい。わたしが人を遣わして彼を捕らえよう。」

彼は、「見よ、彼はドタンにいます」と告げられた。

14 それゆえ、彼はそこに馬と戦車と大軍勢を遣わした。彼らは夜の間に来て、町を包囲した。

15 神の人のしもべが朝早く起きて外に出ると、見よ、馬と戦車を伴った軍勢が町を取り囲んでいた。彼のしもべは彼に、「ああ、わが主君よ。われわれはどうすればよいのでしょうか」と言った。

16 彼は答えた。「恐れることはない。われわれとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いからだ。」

17 エリシャは祈って、「主よ、どうか彼の目を開いて、彼が見えるようにしてください」と言った。主がその若者の目を開かれると、彼は見た。そして見よ、山はエリシャの周りの火の馬と戦車で満ちていた。

18 彼らが彼のもとへ下って来たとき、エリシャは主に祈って、「どうか、この民を打って目を見えなくしてください」と言った。主はエリシャの言葉にしたがって、彼らを打って目を見えなくされた。

19 エリシャは彼らに言った。「これはその道ではなく、この町でもない。わたしに従いなさい。あなたがたが捜している男のところへ連れて行こう。」彼は彼らをサマリアへ連れて行った。

20 彼らがサマリアに入ったとき、エリシヤは「主よ、この男たちの目を開いて、彼らが見えるようにしてください」と言った。

主が彼らの目を開かれると、彼らは見た。そして見よ、彼らはサマリアの中ほどにいた。

21 イスラエルの王は彼らを見たとき、エリシヤに言った。「わが父よ、彼らを打ちましょうか。彼らを打ちましょうか。」

22 彼は答えた。「彼らを打つてはならない。あなたは、自分の剣と自分の弓で捕らえた捕虜たちを打つだろうか。彼らの前にパンと水を置き、彼らが飲み食いして、彼らの主人のところへ帰るようにしなさい。」

23 彼は彼らのために盛大な食事を用意した。彼らが飲み食いした後、彼は彼らを送り出し、彼らは自分たちの主人のところへ帰って行った。アラムの略奪隊は、イスラエルの地に入ることをやめた。

24 この事の後、アラムの王ベン・ハダドはその全軍勢を集め、上って行ってサマリアを包囲した。

25 サマリアには激しいききんがあった。見よ、彼らはそれを包囲したので、ろばの頭一つが銀八十枚で売られ、四分の一カブ\*の鳩の糞が銀五枚で売られた。

26 イスラエルの王が城壁の上を通り過ぎていたとき、一人の女が彼に向かって叫んで、「お助けください、わが君、王よ」と言った。

27 彼は言った。「もし主があなたを助けてくださらないなら、わたしはどこからあなたを助けることができるだろうか。打ち場からか、それとも酒ぶねからか。」

\* 6:25 6:25 一カブは約2リットルで、その四分の一カブは約500ミリリットル、または約

28 それから王は彼女に尋ねた。「あなたはどうしたのか。」

彼女は答えた。「この女がわたしに、『あなたの息子を出しなさい。今日それを食べ、明日わたしの息子を食べましょう』と言いました。」

29 そこでわたしたちはわたしの息子を煮て、彼を食べました。次の日、わたしが彼女に『あなたの息子を出しなさい。彼を食べましょう』と言うと、彼女は自分の息子を隠してしまいました。」

30 王は女の言葉を聞いたとき、自分の服を引き裂いた（彼は城壁の上を通り過ぎていた）。民が見ると、見よ、彼は肌に粗布をまとっていた。

31 それから彼は言った。「今日、もしシャファテの息子エリシャの首が彼の体に残っているなら、神がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。」

32 しかしエリシャは自分の家に座っており、長老たちも彼とともに座っていた。それから王は自分の前から一人を遣わした。しかし使者が彼のところに来る前に、彼は長老たちに言った。「この人殺しの息子が、わたしの頭を取るために人を遣わしたのを見るか。見よ、使者が来たら戸を閉め、彼を戸の外に押しとどめよ。彼の主君の足音が彼の後ろにあるではないか。」

33 彼がまだ彼らと話している間に、見よ、使者が彼のもとへ下って来た。王は言った。「見よ、この悪は主から出たものだ。なぜわたしはこれ以上主を待たなければならないのか。」

## 7

1 エリシャは言った。「主の言葉を聞きなさい。主はこう言われる。『明日の今ごろ、サマリア

の門で、一セア\* の上等の小麦粉が一シェケル†  
で、二セアの大麦が一シェケルで売られるであ  
う。』」

2 すると王がその手によりかかっていた隊  
長は神の人に答えて言った。「見よ、  
主が天に窓を造られたとしても、このようなこと  
があるだろうか。」

彼は言った。「見よ、あなたはそれを自  
分の目で見よう。しかしそれを食べることはな  
い。」

3 さて、門の入り口には規定の病の四人の男が  
いた。彼らは互いに言った。「なぜわれわれは死ぬ  
までここに座っているのか。」

4 もしわれわれが『町に入ろう』と言え  
ば、町にはききんがあるので、われわれはそ  
こで死ぬ。もしわれわれがここに座ったま  
までいても、われわれはやはり死ぬ。だか  
ら今、さあ、アラム人の陣営に降伏しよう。  
もし彼らがわれわれを生かしておいてくれ  
るなら、われわれは生きる。もし彼らがわ  
れわれを殺すなら、ただ死ぬだけだ。」

5 彼らは夕暮れ時にアラム人の陣営へ行く  
ために起き上がった。彼らがアラム人の陣  
営の外れに来たとき、見よ、そこにはだれ  
もいなかった。

6 主‡ がアラム人の軍勢に、戦車の音、馬  
の音、すなわち大軍勢の音を聞かせられた  
からである。彼らは互いに、「見よ、イスラ  
エルの王がわれわれに攻めかかろうと、  
ヘテ人の王たちとエジプト人の王たちを  
雇ったのだ」と言った。

\* 7:17:1 一セアは約7リットル、または1.9ガロン、または0.8ベックである。

† 7:1 7:1 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。

‡ 7:6 7:6 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

7 それゆえ、彼らは夕暮れ時に起き上がって逃げ、自分たちの天幕、馬、ろば、すなわち陣営をそのまま残し、命からがら逃げ去っていた。

8 これらの規定の病の者たちが陣営の外れに来たとき、彼らは一つの天幕に入り、飲み食いし、そこから銀、金、衣服を持ち去り、行ってそれを隠した。それから彼らは戻って来て、別の天幕に入り、そこからも物を持ち去り、行ってそれらを隠した。

9 それから彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれは黙っている。もし朝の光が射すまで待てば、罰がわれわれに追いつくであろう。だから今、さあ、行って王の家族に告げよう。」

10 そこで彼らは来て、町の門番たちに呼びかけ、彼らに告げて言った。「われわれはアラム人の陣営へ行きました。すると見よ、そこにはだれもおらず、人の声もなく、ただ馬とろばがつながれ、天幕もそのままでした。」

11 門番たちは呼びかけ、王の家族の内側にそれを告げた。

12 王は夜の間に取り上がり、自分のしもべたちに言った。「今、アラム人がわれわれに何をしたか、わたしがあなたがたに示そう。彼らはわれわれが飢えているのを知っている。それゆえ、彼らは陣営から出て行き、野に隠れて、『彼らが町から出て来たとき、われわれは彼らを生け捕りにし、町の中に入ろう』と言っているのだ。」

13 彼のしもべの一人が答えた。「どうか、町に残されている五頭の馬を数人に取らせてください。見よ、それらはここに残っているイスラエルの全群衆と同じ運命でしょう。見よ、それら

は滅び失せるイスラエルの全群衆と同じです。遣わして、確かめさせてください。」

14 そこで彼らは馬を伴った二台の戦車を取り、王はそれらをアラムの軍勢の後に遣わして、「行って見よ」と言った。

15 彼らは彼らの後を追ってヨルダン川まで行った。すると見よ、すべての道は、アラム人が急いで投げ捨てた衣服や武具で満ちていた。使者たちは戻って来て、王に告げた。

16 民は出て行き、アラム人の陣営を略奪した。こうして、主の言葉のとおり、一セアの上等の小麦粉が一シェケルで、二セアの大麦が一シェケルで売られた。

17 王は彼がその手によりかかっていた隊長を門の管理に就かせた。しかし民は門で彼を踏みつけ、彼は死んだ。王が彼のもとへ下って来たときに神の人が語った、その言葉のとおりであった。

18 それは、神の人が王に語ったとおりになった。「明日の今ごろ、サマリアの門で、二セアの大麦が一シェケルで、一セアの上等の小麦粉が一シェケルになるであろう。」

19 その隊長は神の人に答えて、「今、見よ、主が天に窓を造られたとしても、このようなことがあるだろうか」と言い、彼は「見よ、あなたはそれを自分の目で見よう。しかしそれを食べることはない」と言っていた。

20 まさにその通りに彼に起こった。民が門で彼を踏みつけ、彼は死んだからである。

## 8

1 さて、エリシャはその息子を生き返らせた女に語って言った。「起きて、あなたの家族とともに行き、滞在できるところならどこにでもしばらく

く滞在しなさい。主がききんを呼び寄せられたからである。それはまた、七年間この地に臨むであろう。」

**2** 女は起き上がり、神の人の言葉にしたがって出て行った。彼女は家族とともに行き、ペリシテ人の地に七年間住んだ。

**3** 七年の終わりに、女はペリシテ人の地から帰って来た。それから彼女は、自分の家と自分の土地のために王に訴え出た。

**4** さて、王は神の人のしもべであるゲハジと話しており、「どうか、エリシャがしたすべての偉大なことをわたしに話してくれ」と言っていた。

**5** 彼がどのように死者を生き返らせたかを王に話していたとき、見よ、エリシャがその息子を生き返らせた女が、自分の家と自分の土地のために王に訴え出た。ゲハジは、「わが君、王よ、これがその女であり、これがエリシャが生き返らせた彼女の息子です」と言った。

**6** 王が女に尋ねると、彼女は彼に語った。そこで王は彼女のために一人の役人を任命し、言った。「彼女のものだったすべてと、彼女がこの地を去った日から今に至るまでの、畑のすべての産物を返しなさい。」

**7** エリシャはダマスコに来た。アラムの王ベン・ハダドは病気であった。彼は「神の人がここに来ました」と告げられた。

**8** 王はハザエルに言った。「手に贈り物を取り、行って神の人を迎えなさい。そして彼を通して主に伺いを立て、『わたしはこの病気から回復するだろうか』と言いなさい。」

**9** そこでハザエルは彼を迎えに行き、四十頭のらくだの荷となるほどのダマスコのあらゆる良いものを贈り物として彼と一緒に持って行き、

来て彼の前に立って言った。「あなたの息子であるアラムの王ベン・ハダドがわたしをあなたに遣わし、『わたしはこの病気から回復するだろうか』と言っています。」

10 エリシャは彼に言った。「行って、彼に『あなたは必ず回復する』と言いなさい。しかし主は、彼が必ず死ぬことをわたしに示された。」

11 エリシャはハザエルが恥じ入るほど、じつと見つめ続けた。それから神の人は泣いた。

12 ハザエルは言った。「なぜわが主君は泣くのですか。」

彼は答えた。「あなたがイスラエルの子らに対して行う悪を、わたしが知っているからだ。あなたは彼らの要害に火を放ち、彼らの若者たちを剣で殺し、彼らの幼い子どもたちを粉々に打ち砕き、彼らの身重の女たちを切り裂くであろう。」

13 ハザエルは言った。「犬にすぎないあなたのしもべが、どうしてこの偉大なことができるでしょうか。」

エリシャは答えた。「主はあなたがアラムの王となることを、わたしに示された。」

14 それから彼はエリシャから去り、自分の主人のところへ帰った。主人は彼に、「エリシャはあなたに何と言ったか」と言った。

彼は答えた。「彼はわたしに、あなたが必ず回復すると言いました。」

15 次の日、彼は厚い布を取り、それを水に浸し、それを王の顔の上に広げたので、彼は死んだ。そしてハザエルが彼に代わって王となった。

16 イスラエルの王、アハブの息子ヨラムの第五年、その時ユダの王はヨシャファテであったが、ユダの王ヨシャファテの息子エホラムが治め始めた。

17 彼は治め始めたとき三十二歳であつた。彼はエルサレムで八年間統治した。

18 アハブの家がしたように、彼はイスラエルの王たちの道を歩んだ。彼はアハブの娘を妻としていたからである。彼は主の御目に悪であることを行つた。

19 しかし主は、そのしもベダビデのゆえに、ユダを滅ぼそうとはされなかつた。それは彼とその子孫にいつもともしびを与えるために、彼に約束されたからである。

20 彼の時代に、エドムはユダの手の下から背き、自分たちの上に王を立てた。

21 それでヨラムはツァイルへ渡って行き、すべての戦車も彼とともにあつた。彼は夜に起き上がり、彼を取り囲んでいたエドム人と戦車の長たちを打つた。そして民は自分たちの天幕へ逃げた。

22 こうしてエドムはユダの手の下から背き、今日に至っている。それからリブナも同じ時に背いた。

23 ヨラムのその他の事績と、彼が行つたすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

24 ヨラムは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子アハズヤが彼に代わつて王となつた。

25 イスラエルの王、アハブの息子ヨラムの第十二年に、ユダの王エホラムの息子アハズヤが治め始めた。

26 アハズヤは治め始めたとき二十二歳であり、エルサレムで一年間統治した。彼の母の名はアタルヤといい、イスラエルの王オムリの娘であつた。

27 彼はアハブの家の道を歩み、アハブの家がしたように、主の御目に悪であることを行つた。彼はアハブの家の婿であつたからである。

28 彼はアハブの息子ヨラムとともに、ラモテ・ギレアデでアラムの王ハザエルと戦うために行き、アラム人はヨラムを傷つけた。

29 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマでアラム人が彼に負わせた傷をいやすために、イスレエルへ帰った。ユダの王エホラムの息子アハズヤは、アハブの息子ヨラムが病気であったため、彼を見舞うためにイスレエルへ下って行った。

## 9

1 預言者エリシャは預言者の子らの一人を呼んで、彼に言った。「あなたの腰に帯を締め、この油の壺を手にとって、ラモテ・ギレアデへ行きなさい。

2 そこに着いたなら、そこでニムシの子ヨシャファテの息子イエフを探し、中に入り、彼を仲間たちの中から立たせて、奥の部屋へ連れて行きなさい。

3 それから油の壺を取り、彼の頭に注いで、『主はこう言われる。「わたしはあなたに油を注いでイスラエルの上の王とする」』と言いなさい。それから戸を開け、逃げなさい。待っているはならない。」

4 こうしてその若者、すなわち預言者である若者はラモテ・ギレアデへ行った。

5 彼が着いたとき、見よ、軍の長たちが座っていた。そこで彼は言った。「隊長、あなたに伝えることがあります。」

イエフは言った。「われわれのうち、だれにだ。」

彼は言った。「隊長、あなたです。」

6 彼は立ち上がって、家の中に入った。すると若者は彼の頭に油を注いで彼に言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなた

に油を注いで主の民、すなわちイスラエルの上の王とする。

7 あなたはあなたの主君アハブの家を打たなければならない。わたしがわたしのしもべである預言者たちの血と、主のすべてのしもべたちの血をイゼベルの手から復讐するためである。

8 アハブの全家は滅びるからである。わたしはイスラエルで、壁に放尿するすべての者\*、閉じ込められている者も、残されている者も、アハブから断ち切る。

9 わたしはアハブの家をネバテの息子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの息子バシャの家のようにする。

10 犬がイズレエルの地所でイゼベルを食うであろう。彼女を葬る者はだれもいない。』」それから彼は戸を開け、逃げた。

11 それからイエフは主君のしもべたちのところに出て来た。ある者が彼に言った。「無事か。なぜあの気の触れた男があなたのところに来たのか。」

彼は彼らに言った。「あなたがたはあの男と、その言いぐさを知っているだろう。」

12 彼らは言った。「それは違う。さあ、われわれに告げてくれ。」

彼は言った。「彼はわたしにこのように語り、『主はこう言われる。「わたしはあなたに油を注いでイスラエルの上の王とする」』』と言った。」

13 すると彼らは急ぎ、各自が自分の上着を取り、階段の頂にある彼の下に置き、角笛を吹き鳴らして、「イエフが王だ」と言った。

14 こうしてニムシの子ヨシャファテの息子イエフは、ヨラムに対して陰謀を企てた。（さて、ヨラム

\* 9:8 9:8 または、男子

と全イスラエルは、アラムの王ハザエルのゆえにラモテ・ギレアデを守っていた。

15 しかし、ヨラム王はアラムの王ハザエルと戦ったときにアラム人が彼に負わせた傷をいやすため、イズレエルへ帰っていた。) )

イエフは言った。「もしこれがあなたがたの思いなら、イズレエルへ行って知らせるために、だれも町から逃げ出させてはならない。」

16 そこでイエフは戦車に乗り、イズレエルへ行った。ヨラムがそこに横たわっていたからである。ユダの王アハズヤはヨラムを見舞うために下って来ていた。

17 イズレエルのやぐらの上に立っていた見張りは、イエフが来るにつれてその群衆を見つけ、言った。「群衆が見えます。」

ヨラムは言った。「騎兵を一人選んで、彼らを迎えに遣わし、『平和か』と言わせよ。」

18 そこで馬に乗った男が彼を迎えに行き、「王が『平和か』と言っておられます」と言った。

イエフは言った。「あなたに平和と何のかかわりがあるのか。わたしの後ろに従え！」

見張りは、「使者は彼らのところに行きましたが、戻って来ません」と告げた。

19 そこで彼は二人目の馬に乗った者を遣わした。彼は彼らのところに来て言った。「王が『平和か』と言っておられます。」

イエフは答えた。「あなたに平和と何のかかわりがあるのか。わたしの後ろに従え！」

20 見張りは告げた。「彼は彼らのところに行きましたが、戻って来ません。そして、その走りはニムシの子イエフの走りのようです。彼が狂ったように走っているからです。」

21 ヨラムは言った。「準備せよ！」彼らは彼の戦車を準備した。イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤは、それぞれ自分の戦車で出て行き、イエフを迎えに出た。彼らはイスラエル人ナボテの地で彼を見つけた。

22 ヨラムはイエフを見たとき、言った。「平和か、イエフよ。」

彼は答えた。「あなたの母イゼベルの淫行とその魔術が満ちあふれているのに、何の平和があるか。」

23 ヨラムは向きを変えて逃げ、アハズヤに言った。「反逆だ、アハズヤ！」

24 イエフは力いっぱい弓を引き、ヨラムの両腕の間を射た。矢は彼の心臓を貫き抜け、彼は戦車の中に崩れ落ちた。

25 それからイエフは自分の隊長ビデカルに言った。「彼を持ち上げ、イスラエル人ナボテの畑の地所に投げ捨てよ。あなたとわたしがともに彼の父アハブの後ろに乗っていたとき、主が彼に対してこの宣告を置かれたのを思い出しなさい。」

26 『確かにわたしは昨日、ナボテの血と彼の息子たちの血を見た』と主は言われる。『わたしはこの地所であなたに報いる』と主は言われる。だから今、主の言葉のとおり、彼を取ってその地所に投げ捨てよ。」

27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、園の家の道を通って逃げた。イエフは彼の後を追い、「彼も戦車の中で打て！」と言った。彼らはイブレアムのそばにあるグルの上り坂で彼を打った。彼はメギドへ逃げ、そこで死んだ。

28 彼のしもべたちは彼を戦車でエルサレムに運び、ダビデの町にある彼の墓に、彼の父祖たち

とともに彼を葬った。

29 アハブの息子ヨラムの第十一年に、アハズヤはユダを治め始めていた。

30 イエフがイズレエルに来たとき、イゼベルはそれを聞いた。彼女は目に化粧を施し、頭を飾り、窓から見下ろした。

31 イエフが門から入って来たとき、彼女は言った。「平和か、ジムリ、自分の主君を殺した者よ。」

32 彼は窓に顔を上げ、そして言った。「だれがわたしの味方か。だれか。」二、三人の宦官が彼を見下ろした。

33 彼は言った。「彼女を突き落とせ！」そこで彼らは彼女を突き落とすとした。彼女の血のいくらかが壁と馬に跳ねかかった。そして彼は彼女を足で踏みつけた。

34 彼が中に入り、飲み食いした後、彼は言った。「さあ、この呪われた女の始末をして、彼女を葬れ。彼女は王の娘だからだ。」

35 彼らは彼女を葬りに行ったが、頭蓋骨と両足と手のひらのほかには何も見つからなかった。

36 それゆえ彼らは戻って来て、彼に告げた。彼は言った。「これは主の言葉だ。主がそのしもべであるティシュベ人エリヤを通して語って言われた。『犬がイズレエルの地所でイゼベルの肉を食うであろう。』

37 イゼベルの死体はイズレエルの地所の野の面で糞のようになる。そのため、だれも「これがイゼベルだ」とは言えなくなる。』」

## 10

1 さて、アハブにはサマリアに七十人の息子がいた。イエフは手紙を書き、サマリアへ、イズレエル

の支配者たち、すなわち長老たちと、アハブの子らを育てた者たちのところに送って言った。

2 「今、この手紙があなたがたに届き次第、あなたがたの主君の息子たちはあなたがたのところにおり、あなたがたには戦車と馬、防備の町と武具もあるのだから、

3 あなたがたの主君の息子たちの中から最も優れ、ふさわしい者を選び、彼を父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」

4 しかし彼らは非常に恐れて言った。「見よ、二人の王でさえ彼の前に立てなかった！まして、どうしてわれわれが立てようか。」

5 そこで、家を管理する者、町を管理する者、また長老たちと子どもたちを育てた者たちは、イエフに人を遣わして言った。「われわれはあなたのしもべであり、あなたがわれわれに求めるすべてのことを行います。われわれはだれも王とはしません。あなたの目に良いと思うことを何でも行ってください。」

6 すると彼は彼らに二度目の手紙を書いて言った。「もしあなたがたがわたしの味方であり、わたしの声に聞き従うなら、あなたがたの主君の息子たちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルのわたしのところに来なさい。」さて、王の息子たちである七十人は、彼らを育てた町の有力者たちと一緒にいた。

7 手紙が彼らに届くと、彼らは王の息子たちを捕らえ、その七十人を殺し、彼らの首をかごに入れ、イズレエルの彼のもとに送った。

8 使者が来て彼に告げて言った。「彼らが王の息子たちの首を持って来ました。」彼は言った。「朝まで、門の入り口に二つの山にして置いておけ。」

9 朝になって彼は外に出、立って、すべての民に言った。「あなたがたは潔白だ。見よ、わたしは主君に対して陰謀を企て、彼を殺した。しかし、これらすべての者を打ったのはだれか。

10 アハブの家について主が語られた主の言葉は、何一つ地に落ちないことを今知るように。主はのしもべエリヤを通して語られた事を行われたからである。」

11 こうしてイエフは、イズレエルにいるアハブの家に残っていたすべての者、彼のすべての有力者、彼の親しい友人たち、彼の祭司たちを、彼に一人も残る者がいなくなるまで打った。

12 彼は立ち上がって出発し、サマリアへ行った。彼が途中の羊飼いたちの毛刈り場にいたとき、

13 イエフはユダの王アハズヤの兄弟たちに出会い、言った。「あなたがたはだれか。」彼らは答えた。「われわれはアハズヤの兄弟です。王の子らと王妃の子らに挨拶するために下って行くところです。」

14 彼は「彼らを生け捕りにせよ!」と言った。彼らは彼らを生け捕りにし、毛刈り家の穴で彼ら四十二人を殺した。彼は彼らのうち一人も残さなかった。

15 彼はそこから出発したとき、レカブの息子エホナダブが彼を迎えに来るのを見つけた。彼は彼に挨拶し、彼に言った。「わたしの心があなたの心に対してまっすぐであるように、あなたの心もまっすぐか。」

エホナダブは「そうです」と答えた。

「もしそうなら、わたしに手を差し出せ。」  
彼は手を差し出した。そしてイエフは彼を自分の戦車に引き上げた。

16 彼は言った。「わたしと一緒に来て、主へのわたしの熱心を見よ。」こうして彼らは彼を戦車に乗せた。

17 彼がサマリアに来たとき、主がエリヤに語られた言葉のとおり、彼はサマリアにいるアハブの家に残っていたすべての者を打ち、ついに彼を滅ぼした。

18 イエフはすべての民を一つに集め、彼らに言った。「アハブは少しだけバアルに仕えたが、イエフは大いに彼に仕えるであろう。

19 だから今、バアルのすべての預言者たち、彼のすべての礼拝者たち、彼のすべての祭司たちをわたしのところに呼べ。だれも欠けてはならない。わたしはバアルに大いなるいけにえをささげるからだ。だれでも欠ける者は、生きられない。」しかし、イエフはバアルの礼拝者たちを滅ぼすために、これを巧みに行ったのである。

20 イエフは「バアルのために厳かな集会を聖別せよ!」と言った。彼らはそれを布告した。

21 イエフは全イスラエルに人を遣わした。そしてバアルのすべての礼拝者たちが来て、来ない者は一人もいなかった。彼らはバアルの家に入り、バアルの家は端から端までいっぱいになった。

22 彼は衣装部屋を管理する者に言った。「バアルのすべての礼拝者たちのために長服を出して来い!」彼は彼らのために長服を出して来た。

23 イエフはレカブの息子エホナダブとともにバアルの家に入った。それから彼はバアルの礼拝者たちに言った。「探し、よく見よ。あなたがたとともに主のしもべが一人もおらず、ただバアルの礼拝者だけがここにいるようにせよ。」

24 彼らはいけにえと全焼のささげ物をささげるために入った。さて、イエフは自分のために外に八十

人の男たちを配置し、こう言っていた。「わたしがあなたがたの手に引き渡す男たちのうち、だれかを逃がしたなら、彼を逃がした者の命は彼の命の代わりとなる。」

25 全焼のささげ物をささげ終えるやいなや、イエフは護衛兵と隊長たちに言った。「入って彼らを殺せ！だれも逃がすな。」彼らは剣の刃で彼らを打った。護衛兵と隊長たちは彼らを投げ捨て、バアルの家の奥の聖所に入った。

26 彼らはバアルの家にあった柱を持ち出し、それらを焼いた。

27 彼らはバアルの柱を打ち壊し、バアルの家を打ち壊し、それを便所にして今日に至っている。

28 このようにして、イエフはバアルをイスラエルから滅ぼした。

29 しかしイエフは、ネバテの息子ヤロブアムの罪、すなわち彼がイスラエルに罪を犯させた罪である、ベテルとダンにある二頭の金の子牛から離れなかった。

30 主はイエフに言われた。「あなたはわたしの目に正しいことを行うことにおいてよくやり、わたしの心にあったすべてのことにしたがってアハブの家に対して行ったので、あなたの子孫は四代目までイスラエルの王座に着くであろう。」

31 しかし、イエフは心を尽くしてイスラエルの神、主の律法に歩むよう注意を払わなかった。彼はヤロブアムがイスラエルに罪を犯させたその罪から離れなかった。

32 そのころ、主はイスラエルの一部を断ち切り始められた。ハザエルはイスラエルのすべての国境で彼らを打った。

33 ヨルダン川から東の方、ギレアデの全地、ガド人、ルベン人、マナセ人、アルノン谷のそばにあるアロエルから、ギレアデとバシヤンに至るまでであった。

34 イエフのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

35 イエフは父祖たちとともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。その息子エホアハズが彼に代わって王となった。

36 イエフがサマリアでイスラエルを治めた期間は二十八年間であった。

## 11

1 アハズヤの母アタルヤは、自分の息子が死んだのを見ると、立ち上がって王家の子孫をすべて滅ぼした。

2 しかし、ヨラム王の娘でアハズヤの姉妹であるエホシエバは、アハズヤの息子ヨアシユを取り、殺されようとしていた王の息子たちの中から、彼とその乳母をこっそり連れ出して寝室に入れた。こうして彼らは彼をアタルヤから隠したので、彼は殺されなかった。

3 彼は彼女とともに主の家に六年間隠れていた。その間、アタルヤがその地を治めていた。

4 第七年に、エホヤダは人を遣わしてカリ人と護衛兵の百人隊長たちを呼び寄せ、彼らを主の家の自分のところに連れて来た。彼は彼らと契約を結び、主の家で彼らに誓いを立てさせ、王の息子を彼らに見せた。

5 彼は彼らに命じて言った。「あなたがたのすべきことはこれである。安息日に入って来るあなたがたの三分の一は、王の家の見張りをせよ。

6 三分の一はスルの門に、三分の一は護衛兵の後ろの門にいなさい。このようにして、あなたがたは家の見張りをし、防壁となれ。

7 安息日に出て行くあなたがたの二つの部隊、すなわちすべての者は、王の周りで主の家の見張りをせよ。

8 あなたがたは、各自が武器を手に持つて王を取り囲め。隊列の中に入って来る者は殺させよ。王が出て行くときも、入って来るときも、王とともにいなさい。」

9 百人隊長たちは、祭司エホヤダが命じたすべてのことにしたがって行った。各自が自分の部下たち、すなわち安息日に入って来る者たちと、安息日に出て行く者たちを連れて、祭司エホヤダのところに来た。

10 祭司は、主の家にあったダビデ王の槍と盾を百人隊長たちに渡した。

11 護衛兵は、各自が武器を手に持ち、家の右側から家の左側まで、祭壇と家に沿って王の周りに立った。

12 それから彼は王の息子を連れ出し、彼に王冠をかぶせ、彼にあかしを授けた。彼らは彼を王とし、彼に油を注いだ。そして彼らは手をたたいて、「王、万歳! 」と言った。

13 アタルヤは護衛兵と民の音を聞くと、主の家にいる民のところへ来た。

14 彼女が見ると、見よ、王は習慣にしたがって柱のそばに立っており、百人隊長たちとラッパを吹く者たちが王のそばにいた。その地のすべての民は喜び、ラッパを吹き鳴らしていた。するとアタルヤは自分の服を引き裂き、「反逆だ! 反逆だ! 」と叫んだ。

15 祭司エホヤダは軍の上に立つ百人隊長たちに命じて、彼らに言った。「彼女を隊列の外へ連れ出せ。彼女に従う者は剣で殺せ。」祭司は、「主の家で彼女を殺してはならない」と言ったからである。

16 そこで彼らは彼女を捕らえて連れ出し、彼女は馬の入り口を通って王の家へ行った。彼女はそこで殺された。

17 エホヤダは、主と王および民との間に、彼らが主の民となるという契約を結ばせた。また、王と民の間にも契約を結ばせた。

18 その地のすべての民はバアルの家に行き、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を完全に打ち砕き、祭壇の前でバアルの祭司マタンを殺した。祭司は主の家の上に役人たちを任命した。

19 彼は百人隊長たち、カリ人、護衛兵、およびその地のすべての民を連れ、彼らは王を主の家から連れ下り、護衛兵の門を通って王の家に来た。王は王たちの王座に座った。

20 こうしてその地のすべての民は喜び、町は平穩であった。彼らはアタルヤを王の家で剣にかけて殺していた。

21 エホアシュは治め始めたとき七歳であった。

## 12

1 イエフの第七年にエホアシュは治め始め、エルサレムで四十年間統治した。彼の母の名はベエルシエバのツイビヤといった。

2 エホアシュは、祭司エホヤダが彼を教え導いたすべての日々において、主の御目に正しいことを行なった。

3 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。

4 エホアシュは祭司たちに言った。  
「主の家に持ち込まれる聖別されたすべての銀、すなわち通用する銀、各人に割り当てられた評価額の銀、また人が主の家に持ち込もうと心に決めたすべての銀を、

5 祭司たちはそれぞれ自分に任された人から受け取り、家の破れが見つかったところはどこでも、その家の破れを修理させよ。」

6 しかし、エホアシュ王の第二十二年になっても、祭司たちは家の破れを修理していなかった。

7 そこでエホアシュ王は祭司エホヤダと他の祭司たちを呼んで、彼らに言った。「なぜあなたがたは家の破れを修理しないのか。だから今、あなたがたに任された人からこれ以上銀を受け取ってはならない。それを家の破れのために引き渡せ。」

8 祭司たちは民からこれ以上銀を受け取らないこと、また家の破れを修理しないことに同意した。

9 しかし祭司エホヤダは一つの箱を取り、その蓋に穴を開け、主の家に入って来る者の右側、祭壇のそばにそれを置いた。門を守る祭司たちは、主の家に持ち込まれたすべての銀をその中に入れた。

10 箱の中に銀がたくさんあるのを彼らが見ると、王の書記官と大祭司が上って来て、主の家で見つかった銀を袋に縛り入れ、それを数えた。

11 彼らは量られた銀を、仕事をする者たち、すなわち主の家を監督する者たちの手に渡し、彼らはそれを主の家で働く大工や建築者たち、

12 石工、石を切り出す者たちに支払い、また主の家の破れを修理するための木材と切り石を買うため、そして家を修理するために費やされるすべてのために支払った。

13 しかし、主の家に持ち込まれた銀から、

主の家のための銀の杯、芯切りばさみ、鉢、ラッパ、金の器や銀の器は何も造られなかった。

14 彼らはそれを仕事をする者たちに与え、それで主の家を修理したからである。

15 さらに彼らは、仕事をする者たちに支払うために銀を手渡した男たちとは計算をしなかった。彼らが忠実に事を行っていたからである。

16 咎のささげ物の銀と罪のささげ物の銀は、主の家には持ち込まれなかった。それは祭司たちのものであった。

17 その時、アラムの王ハザエルは上って行ってガテと戦い、それを攻め取った。そしてハザエルはエルサレムに上って行こうと顔を向けた。

18 ユダの王エホアシュは、彼の父祖たちであるユダの王たち、ヨシャファテ、エホラム、アハズヤが聖別したすべての聖なるもの、彼自身の聖なるもの、および主の家の宝物庫と王の家で見つかったすべての金を取り、それをアラムの王ハザエルに送った。すると彼はエルサレムから去って行った。

19 ヨアシュのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

20 彼のしもべたちは立ち上がって陰謀を企て、シラへ下るミロの家でヨアシュを打ち殺した。

21 シメアテの息子ヨザカルと、ショメルの子エホザバド、すなわち彼のしもべたちが彼を打ったので、彼は死んだ。そして彼らは彼をダビデの町で父祖たちとともに葬り、その息子アマツヤが彼に代わって王となった。

## 13

1 ユダの王、アハズヤの息子ヨアシュの第二十二年に、イエフの息子エホアハズがサマリアでイスラ

エルを治め始め、十七年間統治した。

<sup>2</sup>彼は主の御目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪に従った。彼はそこから離れなかった。

<sup>3</sup>主の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、主は彼らのすべての日々において、アラムの王ハザエルの手と、ハザエルの息子ベン・ハダドの手に彼らを引き渡された。

<sup>4</sup>エホアハズは主に懇願し、主は彼に聞き従われた。アラムの王がイスラエルを苦しめたので、主がイスラエルの苦しみをご覧になったからである。

<sup>5</sup>（主はイスラエルに一人の救い主を与えられたので、彼らはアラム人の手の下から逃れ出た。そしてイスラエルの子らは以前のように自分たちの天幕に住んだ。

<sup>6</sup>それにもかかわらず、彼らはイスラエルに罪を犯させたヤロブアムの家の罪から離れず、その中を歩んだ。アシェラ像もまたサマリアに残っていた。）

<sup>7</sup>彼はエホアハズに、五十人の騎兵、十台の戦車、一万人の歩兵のほかには民を残さなかった。アラムの王が彼らを滅ぼし、彼らを打ち場にあるちりのようにしたからである。

<sup>8</sup>エホアハズのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、および彼の力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

<sup>9</sup>エホアハズは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をサマリアに葬った。そしてその息子ヨアシユが彼に代わって王となった。

<sup>10</sup>ユダの王ヨアシユの第三十七年に、エホアハズの息子エホアシュがサマリアでイスラエルを治め始め、十六年間統治した。

<sup>11</sup>彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイ

イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムのすべての罪から離れず、その中を歩んだ。

12 ヨアシュのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼がユダの王アマツヤと戦ったときの彼の力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

13 ヨアシュは父祖たちとともに眠りにつき、ヤロブアムが彼の王座に座った。ヨアシュはイスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。

14 さて、エリシャは自分が死ぬことにな  
る病に倒れた。イスラエルの王ヨアシュは彼のもとへ下って来て、彼の顔の上で泣き、こう言った。「わが父よ、わが父よ。イスラエルの戦車とその騎兵たちよ！」

15 エリシャは彼に言った。「弓と矢を取りなさい。」そこで彼は弓と矢を取った。

16 エリシャはイスラエルの王に言った。「あなたの手を弓に置きなさい。」彼が手を置くと、エリシャは王の手の上に自分の手を置いた。

17 そして彼は言った。「東の窓を開けなさい。」彼がそれを開けると、エリシャは「射なさい」と言った。彼が射ると、彼は言った。

「主の救いの矢、アラムからの救いの矢。あなたはアフエクでアラム人を打ち、ついに彼らを滅ぼすであろう。」

18 彼はまた、「矢を取りなさい」と言った。彼がそれを取ると、エリシャはイスラエルの王に、「地面を打ちなさい」と言った。彼は三度打って、やめた。

19 神の人は彼に向かって怒って言った。「あなたは五度か六度打つべきであった。そうすれば、あなたはアラム人を打ち、ついにこれを滅ぼしたのであるうに。しかし今、あなたがアラムを打つのは三度だ

けである。」

20 エリシャは死に、彼らは彼を葬った。さて、年が改まるころ、モアブ人の略奪隊がその地に侵入してきた。

21 人々がある男を葬っていたとき、見よ、彼らは略奪隊を見つけた。そこで彼らはその男をエリシャの墓に投げ込んだ。男が下ろされてエリシャの骨に触れると、彼は生き返り、自分の足で立ち上がった。

22 アラムの王ハザエルは、エホアハズのすべての日々においてイスラエルを苦しめた。

23 しかし主は彼らに恵みを与え、彼らをあわれみ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約のゆえに彼らに目を向けられた。主は彼らを滅ぼそうとはされず、今に至るまで彼らをご自分の前から投げ捨てることはされなかった。

24 アラムの王ハザエルは死に、その息子ベン・ハダドが彼に代わって王となった。

25 エホアハズの息子エホアシュは、ハザエルの息子ベン・ハダドの手から、彼が戦いによって父エホアハズの手から奪った町々を再び奪い返した。ヨアシュは三度彼を打ち負かし、イスラエルの町々を回復した。

## 14

1 イスラエルの王、ヨアハズの息子ヨアシュの第二年に、ユダの王、ヨアシュの息子アマツヤが治め始めた。

2 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで二十九年間統治した。彼の母の名はエルサレムのエホアダンとあった。

3 彼は主の御目に正しいことを行っただが、彼の父ダビデのようではなかった。彼は父ヨアシュが行ったすべてのことに従って行った。

4 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。

5 彼の手には王国が確かなものとなるとすぐに、彼は彼の父である王を殺した自分のしもべたちを殺した。

6 しかし、人を殺した者たちの子らは死に渡さなかった。それは、モーセの律法の書に書かれていることに従ったためである。そこで主は命じて、「父は子らのゆえに死に渡されてはならず、子らも父たちのゆえに死に渡されてはならない。各人は自分自身の罪のゆえに死に渡されなければならない」と言われた。

7 彼は塩の谷でエドム人一万人を殺し、戦いによってセラを攻め取り、その名をヨクテエルと呼んで今日に至っている。

8 その時、アマツヤはイエフの息子エホアハズの息子であるイスラエルの王エホアシュに使者たちを遣わして、「来い、互いに顔を合わせようではないか」と言った。

9 イスラエルの王エホアシュはユダの王アマツヤに人を遣わして言った。「レバノンにあるあざみが、レバノンにある杉に人を遣わして、『あなたの娘をわたしの息子に妻として与えよ』と言った。するとレバノンにある野の獣が通り過ぎて、そのあざみを踏みにじった。

10 あなたは確かにエドムを打った。そしてあなたの心はあなたを高ぶらせた。この栄光を楽しんで、自分の家にとどまっていなさい。なぜあなたはわざわざ招くように手出しをして、あなたも、あなたとともにいるユダも倒れなければならないのか。」

11 しかしアマツヤは聞き入れようとはしなかった。それゆえイスラエルの王エホアシュは上つて行き、彼とユダの王アマツヤはユダに属するベテ・シエメシュで互いに顔を合わせた。

12 ユダはイスラエルの前に打ち負かされ、それぞれ自分の天幕へ逃げた。

13 イスラエルの王エホアシュはベテ・シエメシュで、アハズヤの息子ヨアシュの息子であるユダの王アマツヤを捕らえた。それから彼はエルサレムに来て、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、四百キュビト\* 打ち壊した。

14 彼は主の家と王の家の宝物庫で見つかったすべての金、銀、すべての器、また人質を取り、サマリアへ帰った。

15 エホアシュが行ったその他の事績、彼の力、彼がどのようにユダの王アマツヤと戦ったかは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

16 エホアシュは父祖たちとともに眠りにつき、サマリアでイスラエルの王たちとともに葬られた。そしてその息子ヤロブアムが彼に代わって王となった。

17 ユダの王ヨアシュの息子アマツヤは、イスラエルの王ヨアハズの息子エホアシュの死後、十五年生きた。

18 アマツヤのその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

19 彼らはエルサレムで彼に対して陰謀を企てたので、彼はラキシユへ逃げた。しかし彼らはラキシユへ彼を追いかけて人を遣わし、そこで彼を殺した。

\* 14:13 14:13 一キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、また

20 彼らは彼を馬で運び、彼はエルサレムでダビデの町に父祖たちとともに葬られた。

21 ユダのすべての民は十六歳であったアザルヤを取り、彼の父アマツヤの代わりに彼を王とした。

22 王が父祖たちとともに眠りについた後、彼はエラテを建て、それをユダに回復した。

23 ユダの王、ヨアシュの息子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王、ヨアシュの息子ヤロブアムがサマリアで治め始め、四十一年間統治した。

24 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。

25 彼はハマテの入り口からアラバの海に至るまでのイスラエルの領土を回復した。これはイスラエルの神、主がガテ・ヘフェル出身の預言者であるそのしもべ、アミタイの息子ヨナを通して語られた主の言葉のとおりであった。

26 主は、イスラエルの苦しみが奴隷にも自由人にも非常に激しく、イスラエルを助ける者がいないのをご覧になったからである。

27 しかし主は、イスラエルの名を天の下から消し去るとは言われず、ヨアシュの息子ヤロブアムの手によって彼らを救われた。

28 ヤロブアムのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼の力、彼がどのように戦い、どのようにしてユダに属していたダマスコとハマテをイスラエルのために回復したかは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

29 ヤロブアムは父祖たち、すなわちイスラエルの王たちとともに眠りにつき、その息子ゼカリヤが彼に代わって王となった。

## 15

1 イスラエルの王ヤロブアムの第二十七年に、ユダの王アマツヤの息子アザルヤが治め始めた。

2 彼は治め始めたとき十六歳で、エルサレムで五十二年間統治した。彼の母の名はエコルヤといい、エルサレムの出身であった。

3 彼は父アマツヤが行ったすべてのことに従って、主の御目に正しいことを行った。

4 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。

5 主は王を打たれたので、彼は死ぬ日まで規定の病の者となり、隔離された家に住んだ。王の息子ヨタムが家を管理し、その地の民をさばいた。

6 アザルヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されていないか。

7 アザルヤは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をダビデの町で父祖たちとともに葬った。そしてその息子ヨタムが彼に代わって王となった。

8 ユダの王アザルヤの第三十八年に、ヤロブアムの息子ゼカリヤがサマリアでイスラエルを治め始め、六か月間統治した。

9 彼は彼の父祖たちがしたように、主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。

10 ヤベシュの息子シャルムは彼に対して陰謀を企て、民の前で彼を打って殺し、彼に代わって王となった。

11 ゼカリヤのその他の事績は、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。

12 これは主がイエフに語って、「あなたの子孫は四代目までイスラエルの王座に着くであろう

う」と言われた主の言葉であった。そしてそのようになつた。

13 ユダの王ウジヤの第三十九年に、ヤベシュの息子シャルムが治め始めた。彼はサマリアで丸一か月間統治した。

14 ガディの息子メナヘムがティルツアから上つて来て、サマリアに入り、サマリアでヤベシュの息子シャルムを打つて殺し、彼に代わつて王となつた。

15 シャルムのその他の事績と、彼が企てた反逆は、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。

16 その時、メナヘムはティルツアから来て、ティフサとそこにあるすべてのもの、およびその国境を打つた。彼らが彼に対して門を開かなかつたからである。それゆえ彼はそれを打ち、そこにいる身重の女たちをすべて切り裂いた。

17 ユダの王アザルヤの第三十九年に、ガディの息子メナヘムがイスラエルを治め始め、サマリアで十年間統治した。

18 彼は主の御目に悪であることを行つた。彼はそのすべての日々において、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかつた。

19 アッシリアの王プルがその地に攻めて来た。メナヘムは銀一千タラント\*をプルに与え、自分の手に王国を確かなものとするために、彼の手が自分とともにあるようにした。

20 メナヘムは、アッシリアの王に与えるために、イスラエルのすべての裕福な有力者から、一

\* 15:19 15:19 一タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。千タラントは

人につき銀五十シエケル<sup>†</sup>  
ずつを徴収した。こうしてアッシリア  
の王は引き返し、その地にとどまらなかった。

21 メナヘムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

22 メナヘムは父祖たちとともに眠りにつき、その息子ペカフヤが彼に代わって王となった。

23 ユダの王アザルヤの第五十年に、メナヘムの息子ペカフヤがサマリアでイスラエルを治め始め、二年間統治した。

24 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。

25 彼の軍の長である、レマルヤの息子ペカは彼に対して陰謀を企て、アルゴブとアリエとともに、サマリアの王の家の城郭で彼を打った。彼とともにギレアデ人五十人の男がいた。彼は彼を殺し、彼に代わって王となった。

26 ペカフヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。

27 ユダの王アザルヤの第五十二年に、レマルヤの息子ペカがサマリアでイスラエルを治め始め、二十年間統治した。

28 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。

29 イスラエルの王ペカの時代に、アッシリアの王ティグラテ・ピレセルが来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノア、ケデシュ、ハツオ

<sup>†</sup> 15:20 15:20 —シエケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。五十シエケルは

ル、ギレアデ、ガリラヤ、すなわちナフタリの全地を奪い、彼らをアッシリアへ捕らえ移した。

30 エラの息子ホセアは、レマルヤの息子ペカに対して陰謀を企て、彼を打って殺し、ウジヤの息子ヨタムの第二十年に彼に代わって王となった。

31 ペカのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。

32 イスラエルの王、レマルヤの息子ペカの第二年に、ユダの王ウジヤの息子ヨタムが治め始めた。

33 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで十六年間統治した。彼の母の名はエルシャといい、ツアドクの娘であった。

34 彼は主の御目に正しいことを行った。彼は父ウジヤが行ったすべてのことに従って行った。

35 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。彼は主の家の上の門を建てた。

36 ヨタムのその他の事績と、彼が行ったことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

37 その時代に、主はアラムの王レツインとレマルヤの息子ペカをユダに対して送り始められた。

38 ヨタムは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子アハズが彼に代わって王となった。

## 16

1 レマルヤの息子ペカの第十七年に、ユダの王ヨタムの息子アハズが治め始めた。

2 アハズは治め始めたとき二十歳で、エルサレムで十六年間統治した。彼はその父ダビデのように、彼の神、主の御目に正しいことを行わなかった。

3 彼はイスラエルの王たちの道を歩み、主がイスラエルの子らの前から追ひ払われた国々の忌むべきことの通りに、自分の息子を火の中を通らせることさえした。

4 彼はまた、高き所、丘の上、そしてすべての青々とした木の下でいけにえをささげ、香をたいた。

5 その時、アラムの王レツインと、イスラエルの王、レマルヤの息子ペカがエルサレムへ戦いに上って来た。彼らはアハズを包囲したが、彼に打ち勝つことはできなかった。

6 その時、アラムの王レツインはエラテをアラムに回復し、ユダの人々をエラテから追ひ払った。アラム人たちがエラテにやって来てそこに住み、今日に至っている。

7 そこでアハズはアッシリアの王ティグラテ・ピレセルに使者たちを遣わして言った。「わたしはあなたのしもべであり、あなたの息子です。上って来て、わたしに立ち向かって起き上がっているアラムの王の手とイスラエルの王の手から、わたしを救い出してください。」

8 アハズは主の家と王の家の宝物庫で見つかった銀と金を取り、アッシリアの王に贈り物として送った。

9 アッシリアの王は彼に聞き従った。アッシリアの王はダマスコへ上って行ってそれを攻め取り、その民をキルへ捕らえ移し、レツインを殺した。

10 アハズ王はアッシリアの王ティグラテ・ピレセルに会うためにダマスコへ行った。彼はダマスコにある祭壇を見た。アハズ王は祭壇の図面と、そのすべての造りの詳細な模型を祭司ウリヤに送った。

11 祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったすべてのことに従って祭壇を築いた。アハズ王がダ

マスコから帰って来る前に、祭司ウリヤはそのようにそれを造った。

12 王がダマスコから帰って来たとき、王は祭壇を見た。そして王は祭壇に近づき、その上に上った。

13 彼は全焼のささげ物と穀物のささげ物を焼き、注ぎのささげ物を注ぎ、和解のいけにえの血を祭壇に振りかけた。

14 また彼は主の前にあった青銅の祭壇を、家の前から、すなわち新しい祭壇と主の家の間から移し、それを新しい祭壇の北側に置いた。

15 アハズ王は祭司ウリヤに命じて言った。「大きな祭壇の上で、朝の全焼のささげ物と、夕暮れの穀物のささげ物と、王の全焼のささげ物とその穀物のささげ物と、その地のすべての民の全焼のささげ物と彼らの穀物のささげ物と彼らの注ぎのささげ物を焼きなさい。そして全焼のささげ物のすべての血と、いけにえのすべての血をそれに振りかけなさい。しかし青銅の祭壇は、わたしが伺いを立てるためのものとする。」

16 祭司ウリヤは、アハズ王が命じたすべてのことに従ってそのように行った。

17 アハズ王は台座の側板を切り取り、そこから洗盤を取り除いた。また海をその下にあった青銅の牛から下ろし、それを石の敷物の上に置いた。

18 家の中に建てられていた安息日のための覆いと、王の外の入り口を、アッシリアの王のゆえに主の家から移した。

19 アハズが行ったその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

20 アハズは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子ヒゼキヤが彼に代わって王となった。

# 17

1 ユダの王アハズの第十二年に、エラの息子ホセアがサマリアでイスラエルを治め始め、九年間統治した。

2 彼は主の御目に悪であることを行ったが、彼より前にいたイスラエルの王たちのようではなかった。

3 アッシリアの王シャルマネセルが彼に攻め上って来た。ホセアは彼のしもべとなり、彼に貢ぎ物を持って来た。

4 アッシリアの王はホセアの反逆を見つけた。彼がエジプトの王ソに使者たちを遣わし、年ごとにしていたようにはアッシリアの王に貢ぎ物を納めなかったからである。それゆえアッシリアの王は彼を閉じ込め、監獄につないだ。

5 それからアッシリアの王はその全地に攻め上り、サマリアに上って来て、三年間それを包囲した。

6 ホセアの第九年に、アッシリアの王はサマリアを攻め取り、イスラエルをアッシリアへ捕らえ移した。そして彼らをハラと、ゴザンの川のハボルト、メディア人の町々に住ませた。

7 イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から、エジプトの王ファラオの手の下から導き上られた彼らの神、主に対して罪を犯し、他の神々を恐れ、

8 主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の定めや、イスラエルの王たちが作った定めの中を歩んだので、この事が起こった。

9 イスラエルの子らは、彼らの神、主に対して正しくない事柄を密に行い、見張りのやぐらから防備の町に至るまで、すべての町々に高き所を建てた。

10 彼らはすべての高い丘の上と、すべての青々とした木の下に、石の柱とアシェラ像を立て、

11 主が彼らの前から捕らえ移された国々がしたように、すべての高き所で香をたいた。彼らは悪事を行って主を怒らせた。

12 彼らは、主が彼らに「あなたがたはこの事を行ってはならない」と言われていた偶像に仕えた。

13 それでも主は、すべての預言者とすべての先見者を通してイスラエルとユダに警告して言われた。「あなたがたの悪い道から立ち返り、わたしがあなたがたの父祖たちに命じ、またわたしのしもべである預言者たちを通してあなたがたに送ったすべての律法に従って、わたしの戒めとわたしの定めを守りなさい。」

14 しかし彼らは聞き入れようとはせず、彼らの神、主を信じなかった彼らの父祖たちのうなじのように、自分たちのうなじを固くした。

15 彼らは主の定めと、主が彼らの父祖たちと結ばれた契約と、主が彼らに与えられたあかしを退けた。彼らはむなししいものに従って歩み、自らもむなしくなり、主が彼らに「彼らのように行ってはならない」と命じられていた、周囲の国々のようになった。

16 彼らは彼らの神、主のすべての戒めを捨て、自分のために鑄造の像、すなわち二頭の子牛を造り、アシェラ像を造り、天のすべての軍勢を拝み、バアルに仕えた。

17 彼らは自分たちの息子や娘たちを火の中を通らせ、占いを用い、まじないを行い、主の御目に悪であることを行うために身を売り、彼を怒らせた。

18 それゆえ、主はイスラエルに向かって非常に怒られ、彼らを御前から取り除かれた。ユダ

の部族のほかには何も残らなかった。

19 ユダもまた、彼らの神、主の戒めを守らず、イスラエルが作った定めの中を歩んだ。

20 主はイスラエルのすべての子孫を退け、彼らを苦しめ、彼らを略奪者たちの手に引き渡された。ついに彼はご自分の前から彼らを投げ捨てられた。

21 彼がイスラエルをダビデの家から引き裂かれたとき、彼らはネバテの息子ヤロブアムを王とした。ヤロブアムはイスラエルを主に従うことかららせて、彼らに大いなる罪を犯させた。

22 イスラエルの子らはヤロブアムが犯したすべての罪の中を歩んだ。彼らはそこから離れず、

23 ついに主は、そのすべてのしもべである預言者たちを通して語られたとおりに、ご自分の前からイスラエルを取り除かれた。こうしてイスラエルは自分たちの地からアッシリアへ捕らえ移され、今日に至っている。

24 アッシリアの王はバビロン、クタ、アワ、ハマテ、セファルワイムから人々を連れて来て、イスラエルの子らの代わりにサマリアの町々に住ませた。彼らはサマリアを所有し、その町々に住んだ。

25 彼らがそこに住み始めたころ、彼らは主を恐れていなかったのので、主は彼らの中に獅子を送られ、獅子は彼らの中の何人かを殺した。

26 それゆえ人々はアッシリアの王に語って言った。「あなたが移住させ、サマリアの町々に住ませた国々は、その地の神の定めを知りません。それゆえ、神は彼らの中に獅子を送られ、見よ、獅子は彼らを殺しています。彼らがその地の神の定めを知らないからです。」

27 そこでアッシリアの王は命じて言った。「あなたがたがそこから捕らえ移した祭司の一人をそこ

に連れて行け。彼に\*行ってそこに住ませ、その地の神の定めを彼らに教えさせよ。」

28 そこで、彼らがサマリアから捕らえ移した祭司の一人が来てベテルに住み、どのように主を恐れるべきかを彼らに教えた。

29 しかし、それぞれの国が自分たちの神々を造り、サマリア人が造った高き所の家々にそれらを置いた。それぞれの国が自分たちの住んでい町々でそのようにした。

30 バビロンの人々はスコテ・ベノテを造り、クタの人々はネルガルを造り、ハマテの人々はアシマを造り、

31 アワ人はニブハズとタルタクを造り、セファルワウム人はセファルワウムの神々であるアドラメレクとアナメレクのために自分たちの子らを火で焼いた。

32 彼らは主を恐れながらも、自分たちの中から高き所の祭司たちを作り、その祭司たちは彼らのために高き所の家々でいけにえをささげた。

33 彼らは主を恐れながらも、彼らが捕らえ移されてきた国々の習慣に従って、自分たちの神々に仕えた。

34 今日まで、彼らは以前の習慣に従っている。彼らは主を恐れず、自分たちの掟や定めにも、主がイスラエルと名づけられたヤコブの子らに、主が命じられた律法や戒めにも従って行わない。

35 主は彼らと契約を結び、彼らに命じて言われた。「あなたがたは他の神々を恐れてはならない。またそれらを拜んではならないし、それらに仕えてはならないし、それらにいけにえをささげてはならない。」

---

\* 17:27 17:27 ヘブル語では「彼らに」（複数形）である。

36 しかし、大いなる力と伸ばされた腕をもってあなたがたをエジプトの地から導き上られた主、彼をあなたがたは恐れ、彼を拝み、彼にいけにえをささげなければならない。

37 彼があなたがたのために書き記された掟、定め、律法、戒めを、あなたがたはいつまでも守って行わなければならない。他の神々を恐れてはならない。

38 わたしがあなたがたに結んだ契約を忘れてはならない。また他の神々を恐れてはならない。

39 しかし、あなたがたの神、主を恐れなさい。そうすれば、彼はあなたがたをすべての敵の手から救い出される。」

40 しかし彼らは聞き入れようとはせず、以前の習慣に従って行った。

41 こうしてこれらの国々は主を恐れながらも、その刻まれた像に仕えた。彼らの子らも、その子らの子らも同じである。彼らの父祖たちが行ったように、彼らも行い、今日に至っている。

## 18

1 イスラエルの王、エラの息子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの息子ヒゼキヤが治め始めた。

2 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで二十九年間統治した。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。

3 彼は父ダビデが行ったすべてのことに従って、主の御目に正しいことを行った。

4 彼は高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒した。彼はまた、モーセが造った青銅の蛇を粉々に打ち砕いた。そのころまでイスラエルの子らはそれに香をたいていたからである。彼はそれをネフシュタンと呼んだ。

5 彼はイスラエルの神、主に信頼した。そのため、彼の後にも、彼より前にいた者たちの中にも、ユダのすべての王たちの中に彼のような者はいなかった。

6 彼は主に堅く従い、彼に従うことから離れず、主がモーセに命じられた彼の戒めを守ったからである。

7 主は彼とともにおられた。彼はどこへ行っても成功した。彼はアッシリアの王に背き、彼に仕えなかった。

8 彼は見張りのやぐらから防備の町に至るまで、ペリシテ人をガザとその国境まで打った。

9 ヒゼキヤ王の第四年、すなわちイスラエルの王、エラの息子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲した。

10 三年の終わりに彼らはそれを攻め取った。ヒゼキヤの第六年、すなわちイスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。

11 アッシリアの王はイスラエルをアッシリアへ捕らえ移し、彼らをハラと、ゴザンの川のハボルと、メディア人の町々に置いた。

12 彼らが彼らの神、主の声に聞き従わず、その契約、すなわち主のしもべモーセが命じたすべてのことに背き、それを聞こうとも行おうともしなかったからである。

13 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王セナケリブがユダのすべての防備の町々に攻め上って来て、それらを攻め取った。

14 ユダの王ヒゼキヤはラキシユにいるアッシリアの王に人を遣わして言った。「わたしは罪を犯しました。わたしから引き返してください。あなたがわたしに課すものは何でも負います。」アッシリア

の王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラント\*  
と金三十タラントを課した。

15 ヒゼキヤは主の家と王の家の宝物庫で見つかったすべての銀を彼に与えた。

16 その時、ヒゼキヤは主の神殿の扉と、ユダの王ヒゼキヤが金をかぶせた柱から金を切り取り、それをアッシリアの王に与えた。

17 アッシリアの王は、タルタン、ラブサリス、ラブシャケをラキシユからヒゼキヤ王のもとへ、大軍勢を率いてエルサレムに遣わした。彼らは上って行ってエルサレムに来た。彼らが上って来たとき、彼らは来て、布さらしの野の大通りにある上の池の水道のそばに立った。

18 彼らが王を呼ぶと、家を管理するヒルキヤの息子エリアキム、書記官シェブナ、記録官であるアサフの息子ヨアが彼らのところに出て来た。

19 ラブシャケは彼らに言った。「さあ、ヒゼキヤに言え。『大王、アッシリアの王はこう言われる。『あなたが頼みとしているこの頼みは何なのか。』

20 あなたは（それは空しい言葉にすぎないが）『戦いのための助言と力がある』と言っている。今、あなたはだれに頼んで、わたしに背いたのか。

21 今、見よ、あなたはこの傷ついた葦の杖、すなわちエジプトを頼みとしている。人がそれによりかかれれば、それは彼の手に入り込んで突き刺さるであろう。エジプトの王ファラオは、彼を頼みとするすべての者にとってそのようである。

22 しかし、もしあなたがたがわたしに、『われわれはわれわれの神、主に頼む』と言うなら、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除き、ユダとエルサレ

\* 18:14 18:14 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

ムに『あなたがたはエルサレムにあるこの祭壇の前で拝まなければならない』と言った、その方ではないか。」

23 だから今、どうか、わたしの主君であるアッシリアの王に担保を差し出してみよ。もしあなたが自分の側でそれらに乗り手を乗せることができるなら、わたしはあなたに二千頭の馬を与えよう。

24 それなら、どうしてあなたはわたしの主君のしもべたちのうち最も小さな隊長一人さえ退けることができようか。まして、戦車と騎兵のためにエジプトを頼みとするとは。

25 わたしが今、この場所を滅ぼすために主によらずに上って来たであろうか。主はわたしに、「この地の上って行き、それを滅ぼせ」と言われたのだ。』」

26 ヒルキヤの息子エリアキムとシェブナとヨアは、ラブシャケに言った。「どうか、あなたのしもべたちにアラム語で話してください。われわれはそれを理解できるからです。城壁の上にいる民が聞いているところで、ユダの言葉でわれわれと話さないでください。」

27 しかしラブシャケは彼らに言った。「わたしの主君はあなたの主君とあなたにこれらの言葉を語るためにわたしを遣わしたのだろうか。彼は、あなたがたとともに自分たちの糞を食い、自分たちの尿を飲むために城壁の上に座っている男たちに、わたしを遣わしたのではないか。」

28 それからラブシャケは立ち、ユダの言葉で大声で叫び、語って言った。「大王、アッシリアの王の言葉を聞け。

29 王はこう言われる。『ヒゼキヤに欺かれてはならない。彼は彼の手からあなたがたを救い出すことはできないからだ。』

30 ヒゼキヤが「主は必ずわれわれを救い出され、この町はアッシリアの王の手に引き渡されることはない」と言って、あなたがたに主を頼みとさせてはならない。

31 ヒゼキヤに聞き入れてはならない。』アッシリアの王はこう言われるからである。『わたしと和睦し、わたしのところに出て来い。そして、あなたがたはそれぞれ自分のぶどうの木から食べ、それぞれ自分のいちじくの木から食べ、それぞれ自分の井戸の水を飲め。

32 わたしが来て、あなたがたをあなたがた自身の地のような地、穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地、オリーブの木とはちみつ  
の地へ連れ去るまでである。そうして、あなたがたは生きて死なない。ヒゼキヤが「主はわれわれを救い出される」と言ってあなたがたを説き伏せようとするとき、彼に聞き入れてはならない。

33 諸国の神々のうち、その地をアッシリアの王の手から救い出した者が、かつていたろうか。

34 ハマテとアルパドの神々はどこにいるか。セファルワイム、ヘナ、イワの神々はどこにいるか。彼らはサマリアをわたしの手から救い出したか。

35 これらの国々のすべての神々のうち、だれが自分の国をわたしの手から救い出したので、主がエルサレムをわたしの手から救い出せるというのか。』」

36 しかし民は黙っており、彼にひと言も答えなかった。王の命令が、「彼に答えてはならない」というものだったからである。

37 それから、家を管理するヒルキヤの息子エリアキム、書記官シェブナ、および記録官であるアサフの息子ヨアは、服を引き裂いてヒゼキヤのところに来て、ラブシャケの言葉を彼に告げた。

## 19

<sup>1</sup> ヒゼキヤ王はそれを聞いたとき、自分の服を引き裂き、粗布を体にまとって、主の家に入った。

<sup>2</sup> 彼は家を管理するエリアキム、書記官シェブナ、および祭司の長老たちに粗布をまとわせて、アモツの息子である預言者イザヤのもとに遣わした。

<sup>3</sup> 彼らは彼に言った。「ヒゼキヤはこう言います。『今日は苦難と、責めと、拒絶の日である。子どもたちが生まれようとしているのに、産み出す力がないからだ。』」

<sup>4</sup> あなたの神、主が、生ける神をそしるためにその主君であるアッシリアの王が遣わしたラブシャケのすべての言葉を聞き、あなたの神、主が聞かれたその言葉を責めてくださるかもしれない。それゆえ、残されている残りの者のために、あなたの祈りをささげてほしい。』」

<sup>5</sup> こうして、ヒゼキヤ王のしもべたちはイザヤのところに来た。

<sup>6</sup> イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『主はこう言われる。「アッシリアの王のしもべたちがわたしを冒瀆した、あなたが聞いた言葉を恐れてはならない。』」

<sup>7</sup> 見よ、わたしは彼のうちに一つの霊を置く。彼は知らせを聞いて、自分の国へ帰る。わたしは彼を、彼自身の国で剣によって倒れさせる。』」

<sup>8</sup> ラブシャケが帰って行くと、アッシリアの王がリブナと戦っているのを見つけた。彼がラキシユから去ったと聞いたからである。

<sup>9</sup> 彼がエチオピアの王ティルハカについて、「見よ、彼はあなたと戦うために出て来た」と言う

のを聞いたとき、彼は再び使者たちをヒゼキヤに遣わして言った。

10 「あなたがたはユダの王ヒゼキヤにこう語って言え。『あなたが頼みとしているあなたの神が、「エルサレムはアッシリアの王の手に引き渡されることはない」と言ってあなたを欺かせてはならない。

11 見よ、あなたはアッシリアの王たちがすべての地に対して、それらを完全に滅ぼすことによってしたことを聞いたはずだ。あなたは救い出されるだろうか。

12 わたしの父祖たちが滅ぼした諸国の神々は、彼らを救い出したらどうか。ゴザン、ハラン、レツェフ、そしてテラサルにいたエデンの子らを。

13 ハマテの王、アルパドの王、セファルワイムの町の王、ヘナの王、イワの王はどこにいるか。』」

14 ヒゼキヤは使者たちの手から手紙を受け取り、それを読んだ。それからヒゼキヤは主の家へ上って行き、それを主の前に広げた。

15 ヒゼキヤは主の御前で祈って言った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。あなたこそ、ただあなただけが、地上のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。

16 主よ、耳を傾けて聞いてください。主よ、目を開いて見てください。生ける神をそしるために彼が送ったセナケリブの言葉を聞いてください。

17 主よ、確かにアッシリアの王たちは諸国とその地を荒れ廃れさせ、

18 彼らの神々を火に投げ込みました。それらは神々ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったからです。それゆえ、彼らはそれらを滅ぼしたのです。

19 ですから今、われわれの神、主よ、どうか彼の手からわれわれを救ってください。そうして、地上のすべての王国が、主よ、あなただけが神であることを知るためです。」

20 アモツの息子イザヤはヒゼキヤに人を遣わして言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたがアッシリアの王セナケリブについてわたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』

21 これが、主が彼について語られた言葉である。『処女であるシオンの娘は、あなたをさげすみ、あなたをあざ笑った。  
エルサレムの娘は、あなたの後ろで頭を振った。

22 あなたはだれをそしり、冒瀆したのか。  
あなたはだれに向かって声を上げ、  
目を高く上げたのか。  
イスラエルの聖なる方に向かってではないか。

23 あなたは自分の使者たちによって主をそしり、そして言った。  
「わたしの数多くの戦車で、わたしは山々の高い所、レバノンの奥深くまで上って来た。

わたしはその高い杉の木と、選び抜かれた糸杉の木を切り倒し、  
その最も奥の宿り場、その豊かな森に入る。

24 わたしは穴を掘り、見知らぬ水を飲んだ。  
わたしの足の裏でエジプトのすべての川を上がらせる。」

25 わたしが昔からそれを行い、  
古の時代からそれを形造ったことを、あなたは聞いていないのか。  
今、わたしはそれを実現させ、

- あなたが防備の町々を廢墟の山とするようにした。
- 26 それゆえ、その住民は力が弱く、  
恐れおののき、恥じ入った。  
彼らは野の草や青々とした草のようになり、  
屋上の草や、成長する前に枯れてしまう穀物の  
ようになった。
- 27 しかし、わたしはあなたの座ることも、  
出入りすることも、  
わたしに向かつて激しく怒ることも知っている。
- 28 あなたがわたしに向かつて激しく怒り、あなたの  
の傲慢さがわたしの耳に届いたため、  
わたしはあなたの鼻にわたしの鉤をかけ、あなた  
の唇にわたしのくつわをはめ、  
あなたが来た道からあなたを引き返させる。』
- 29 『これがあなたへのしるしとなる。  
今年に自然に生えたものを食べ、  
二年目にはそこから伸びたものを食べる。  
そして三年目には種を蒔いて刈り入れ、ぶど  
う畑を作ってその実を食べよ。
- 30 ユダの家の生き残った残りの者は、  
再び下に根を張り、上に実を結ぶ。
- 31 残りの者がエルサレムから出て行き、逃れた者が  
シオンの山から出て行くからである。  
万軍の主の熱心がこれを行う。』
- 32 それゆえ、アッシリアの王について主はこ  
う言われる。  
『彼がこの町に入ることはなく、  
ここに矢を射ることもなく、  
盾をもってその前に来ることもなく、

- これに対して土塁を築くこともない。
- 33 彼は自分が来た道を帰り、  
この町に入ることはない』と主は言われる。
- 34 『わたしはこの町を守ってこれを救う。  
わたし自身のため、またわたしのしもベダビデ  
のために。』」
- 35 その夜、主の使いが出て行き、アッシリアの陣  
営で十八万五千人を打った。人々が朝早く起きる  
と、見よ、これらは皆、死体であった。
- 36 そこでアッシリアの王セナケリブは立ち去り、  
帰って行ってニネベに住んだ。
- 37 彼がその神ニスロクの家で拝んでいたとき、  
彼の子であるアドラメレクとシャレツェル  
が剣で彼を打ち、アララテの地へ逃げた。そし  
て彼の息子エサル・ハドンが彼に代わって王となっ  
た。

## 20

- 1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっ  
ていた。アモツの息子である預言者イザヤが彼のと  
ころに来て、彼に言った。「主はこう言われる。  
『あなたの家を整えよ。あなたは死ぬ。生きるこ  
とはない。』」
- 2 すると彼は壁に顔を向け、主に祈って言った。
- 3 「主よ、どうか今、わたしが真実と完全な心  
をもってあなたの前を歩み、あなたの御目に良いこと  
を行ってきたことを思い出してください。」そして  
ヒゼキヤは激しく泣いた。
- 4 イザヤが町の真ん中まで出ないうちに、主の言  
葉が彼に臨んで言った。
- 5 「引き返して、わたしの民の君主ヒゼキヤ  
に言え。『あなたの父ダビデの神、主はこう言われ  
る。「わたしはあなたの祈りを聞いた。わたしはあ  
なたの涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす。

三日目には、あなたは主の家へ上って行くであろう。

6 わたしはあなたの日々に十五年を加える。わたしはあなたとこの町をアッシリアの王の手から救い出し、わたし自身のため、またわたしのしもべダビデのために、この町を守る。」』」

7 イザヤは、「いちじくの塊を持ってきなさい」と言った。彼らがそれを持ってきて腫れ物の上当てると、彼は回復した。

8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「主がわたしをいやし、わたしが三日目に主の家へ上って行くという、どんなしるしがあるのか。」

9 イザヤは言った。「主が語られた事を行われるという、主からのしるしはこれである。影が十段進むのがよいか、それとも十段戻るのがよいか。」

10 ヒゼキヤは答えた。「影が十段進むのは簡単なことです。そうではなく、影を十段戻らせてください。」

11 預言者イザヤが主に呼ばわると、主はアハズの日時計に下っていた影を十段戻された。

12 その時、バビロンの王、バラダンの息子ベロダク・バラダンが、ヒゼキヤに手紙と贈り物を送った。ヒゼキヤが病気であったことを聞いたからである。

13 ヒゼキヤは彼らの言うことを聞き、宝物庫のすべて、すなわち銀、金、香料、高価な油、および武器庫のすべてと、宝物の中に見つかるすべてのものを彼らに見せた。ヒゼキヤが自分の家の中、また全支配地の中で彼らに見せなかったものは何一つなかった。

14 それから預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に言った。「あの男たちは何と言ったのか。彼らはどこからあなたのところに来たのか。」

ヒゼキヤは言った。「彼らは遠い国、バビロンから来ました。」

15 彼は言った。「彼らはあなたの家で何を見たのか。」

ヒゼキヤは答えた。「彼らはわたしの家にあるすべてのものを見ました。わたしの宝物の中で、わたしが彼らに見せなかったものは何一つありません。」

16 イザヤはヒゼキヤに言った。「主の言葉を聞きなさい。」

17 『見よ、あなたの家にあるすべてのもの、またあなたの父祖たちが今日まで蓄えてきたものが、バビロンへ運び去られる日が来る。何一つ残されることはない』と主は言われる。

18 『また彼らは、あなたから出る、あなたがもうけるあなたの息子たちのうちから何人かを取り去り、彼らはバビロンの王の宮殿で宦官となるであろう。』」

19 するとヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが語った主の言葉は良いものです。」彼はさらに言った。「わたしの時代に平和と真実があるなら、よいではないか。」

20 ヒゼキヤのその他の事績、彼のすべての力、彼がどのようにして池と水道を造り、町に水を引いたかは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

21 ヒゼキヤは父祖たちとともに眠りにつき、その息子マナセが彼に代わって王となった。

## 21

1 マナセは治め始めたとき十二歳で、エルサレムで五十五年間統治した。彼の母の名はヘフジバといった。

2 彼は、主がイスラエルの子らの前から追ひ払われた国々の忌むべきことの通りに、主の御目に悪であることを行つた。

3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を再び建て、アハブがイスラエルの王として行つたように、バアルのために祭壇を築き、アシェラ像を造り、天のすべての軍勢を拝み、これらに仕えた。

4 彼は、主が「エルサレムにわたしの名を置く」と言われた主の家に祭壇を築いた。

5 彼は主の家の二つの庭に、天のすべての軍勢のために祭壇を築いた。

6 彼は自分の息子を火の中を通らせ、まじないを行い、占いを用い、霊媒や口寄せと関わつた。彼は主の御目に悪であることを多く行い、主を怒らせた。

7 彼は自分が造つたアシェラの刻まれた像を家に置いた。この家については、主がダビデとその息子ソロモンに言われていた。「わたしがイスラエルのすべての部族の中から選んだこの家とエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。

8 もし彼らが、わたしが彼らに命じたすべてのこと、およびわたしのしもべモーセが彼らに命じたすべての律法に従つて注意深く行ふなら、わたしはイスラエルの足を、わたしが彼らの父祖たちに与えた地から二度とさまよい出させることはしない。」

9 しかし彼らは聞き入れなかつた。マナセは彼らを惑わし、主がイスラエルの子らの前から滅ぼされた国々よりもさらに多くの悪を行わせた。

10 主はそのしもべである預言者たちを通して語つて言われた。

11 「ユダの王マナセがこれらの忌むべきことを行い、彼より前にいたアモリ人が行つたすべての

ことよりも悪を行い、彼が造った偶像によってユダにも罪を犯させたので、

12 それゆえ、イスラエルの神、主はこう言われる。『見よ、わたしはエルサレムとユダにわざわいをもたらす。それを聞く者は皆、両耳が鳴るであろう。』

13 わたしはエルサレムの上に、サマリアの測り縄とアハブの家の下げ振りを伸ばす。人が皿をぬぐい、ぬぐってそれを伏せるように、わたしはエルサレムをぬぐい去る。

14 わたしはわたしの相続の民の残りの者を捨て、彼らを敵の手に引き渡す。彼らはすべての敵のえじきとなり、略奪される。

15 彼らがわたしの目に悪であることを行い、彼らの父祖たちがエジプトから出て来た日から今日に至るまで、わたしを怒らせてきたからである。』』

16 マナセが主の御目に悪であることを行ってユダに犯させたその罪のほかに、マナセは非常に多くの罪のない血を流し、エルサレムを端から端までそれで満たした。

17 マナセのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼が犯した罪は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

18 マナセは父祖たちとともに眠りにつき、彼自身の家の園、すなわちウザの園に葬られた。そしてその息子アモンが彼に代わって王となった。

19 アモンは治め始めたとき二十二歳で、エルサレムで二年間統治した。彼の母の名はメシュレメテといい、ヨトバのハルツの娘であった。

20 彼は父マナセが行ったように、主の御目に悪であることを行った。

21 彼は父が歩んだすべての道を歩み、父が仕えた偶像に仕え、これらを拝んだ。

22 彼は彼の父祖たちの神、主を捨て、主の道を歩まなかった。

23 アモンのしもべたちは彼に対して陰謀を企て、王を彼自身の家で殺した。

24 その地の民は、アモン王に対して陰謀を企てた者たちをすべて打ち殺し、その地の民はその息子ヨシヤを彼の代わりに王とした。

25 アモンが行ったその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

26 彼はウザの園にある彼自身の墓に葬られた。そしてその息子ヨシヤが彼に代わって王となった。

## 22

1 ヨシヤは治め始めたとき八歳で、エルサレムで三十一年間統治した。彼の母の名はエディダといい、ボツカテのアダヤの娘であった。

2 彼は主の御目に正しいことを行い、彼の父ダビデのすべての道を歩み、右にも左にも逸れなかった。

3 ヨシヤ王の第十八年に、王はメシュラムの息子アツアルヤの息子である書記官シャファンを主の家に遣わして言った。

4 「大祭司ヒルキヤのところに上って行き、主の家に持ち込まれた銀、すなわち門を守る者たちが民から集めた銀を数えさせなさい。

5 それを、主の家を監督する仕事をする者たちの手に渡させ、彼らがそれを主の家で働く仕事をする者たちに与え、家の破れを修理させるようにしなさい。

6 すなわち、大工、建築者、石工たちに与えさせ、家を修理するための木材と切り石を買わせなさい。

7 しかし、彼らの手に渡された銀について彼らと計算をしてはならない。彼らが忠実に事を行っているからである。」

8 大祭司ヒルキヤは書記官シャファンに言った。「わたしは主の家で律法の書を見つけた。」ヒルキヤはその書をシャファンに渡し、彼はそれを読んだ。

9 書記官シャファンは王のところに来て、王に報告して言った。「あなたのしもべたちは家で見つかった銀を取り出し、それを主の家を監督する仕事をする者たちの手に渡しました。」

10 書記官シャファンは王に告げて、「祭司ヒルキヤがわたしに一つの書を渡しました」と言った。そしてシャファンはそれを王の前で読んだ。

11 王は律法の書の言葉を聞いたとき、自分の服を引き裂いた。

12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの息子アヒカム、ミカヤの息子アクボル、書記官シャファン、および王のしもべアサヤに命じて言った。

13 「行って、見つかったこの書の言葉について、わたしのため、民のため、そして全ユダのために主に伺いを立てなさい。われわれの父祖たちがこの書の言葉に聞き従わず、われわれについて書かれているすべてのことにしたがって行わなかったため、われわれに向かって燃え上がっている主の激怒は大いなるものだからである。」

14 そこで祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、ハルハスの息子ティクワの息子である、衣装部屋を管理するシャルムの妻、女預言者フルダのところに行った（彼女はエルサレムの第二区に住んでいた）。彼らは彼女と話した。

15 彼女は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたがたをわたしのところに遣わした男に言いなさい。

16 「主はこう言われる。『見よ、ユダの王が読んだあの書のすべての言葉の通りに、わたしはこの場所とその住民にわざわいをもたらす。

17 彼らがわたしを捨て、他の神々に香をたき、彼らの手のすべてのわざによってわたしを怒らせたからである。それゆえ、わたしの激怒はこの場所に向かって燃え上がり、消えることはない。』」

18 しかし、主に伺いを立てるためにあなたがたを遣わしたユダの王については、彼にこう言わなければならない。「あなたが聞いた言葉について、イスラエルの神、主はこう言われる。

19 わたしがこの場所とその住民に対して、『彼らは荒れ廃れ、呪いとなる』と語ったのを聞いたとき、あなたの心は優しく、あなたは主の前に自分を低くし、自分の服を引き裂いてわたしの前で泣いたので、わたしもまたあなたの言うことを聞いた」と主は言われる。

20 「それゆえ見よ、わたしはあなたをあなたの父祖たちに集める。あなたは平安のうちにあなたの墓に集められ、わたしがこの場所にもたらすすべてのわざわいをあなたの目が見ることはない。』」 彼らは王に言葉を持ち帰った。

## 23

1 そこで王は人を遣わし、彼らはユダとエルサレムのすべての長老たちを彼のもとに集めた。

2 王は主の家へ上って行き、ユダのすべての男たち、エルサレムのすべての住民、祭司たち、預言者たち、および小さい者から大きい者まで、すべての民も彼とともにいった。彼は主の家で見つかつ

た契約の書のすべての言葉を彼らの耳に読み聞かせた。

3 王は柱のそばに立ち、主の御前で契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし魂を尽くして主の戒めとあかしと定めを守り、この書に書かれているこの契約の言葉を確立することを誓った。すべての民はその契約の側に立った。

4 王は大祭司ヒルキヤ、第二位の祭司たち、および門を守る者たちに命じて、バアルのため、アシェラのため、そして天のすべての軍勢のために造られたすべての器を主の神殿から持ち出させた。彼はそれらをエルサレムの外のキデロンの野で焼き、その灰をベテルへ運んだ。

5 彼は、ユダの王たちがユダの町々の高さ所とエルサレムの周辺で香をたくために任命した、偶像に仕える祭司たちを取り除き、またバアル、太陽、月、惑星、天のすべての軍勢に香をたく者たちを取り除いた。

6 彼は主の家からアシェラ像をエルサレムの外のキデロンの川に持ち出し、キデロンの川でそれを焼き、粉々に打ち砕いてちりにし、そのちりを一般の民の墓の上にまき散らした。

7 彼は主の家にあった神殿男娼の家を取り壊した。そこは女たちがアシェラのために掛け布を織っていたところである。

8 彼はユダの町々からすべての祭司を連れ出し、ゲバからベエルシェバに至るまで、祭司たちが香をたいていた高さ所を汚した。彼は町の長官ヨシュアの門の入り口にある、門の高き所を打ち壊した。それは町の門に入る人の左手にあった。

9 しかし、高さ所の祭司たちはエルサレムにある主の祭壇には上らず、その兄弟たちの間で種なし

パンを食べた。

10 彼はまた、ベン・ヒンノムの谷にあるトフェテを汚し、だれもモレクのために自分の息子や娘を火の中を通らせることがないようにした。

11 彼は、ユダの王たちが太陽にささげた馬を、主の家の入り口から、境内にあった宦官ナタン・メレクの部屋のそばから取り除き、太陽の戦車を火で焼いた。

12 ユダの王たちが造ったアハズの上の部屋の屋上にある祭壇と、マナセが主の家の二つの庭に造った祭壇を、王は打ち壊し、そこからそれを砕き下ろし、そのちりをキデロンの川に投げ捨てた。

13 イスラエルの王ソロモンがシドン人の忌むべきものアシュトレテのため、モアブの忌むべきものケモシュのため、アンモンの子らの忌むべきものミルコムのために建てた、エルサレムの前、滅びの山の右側にあった高き所を、王は汚した。

14 彼は石の柱を粉々に打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、その場所を人の骨で満たした。

15 イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムが造った、ベテルにある祭壇、その高き所について言えば、彼はその祭壇と高き所を打ち壊し、高き所を焼いて粉々に打ち砕いてちりにし、アシェラ像を焼いた。

16 ヨシヤが振り向くと、そこに山にある墓が見えた。彼は人を遣わして墓から骨を取り出し、それを祭壇の上で焼いてそれを汚した。これは、神の人が告げ知らせた主の言葉のとおりであった。彼はこれらのことを告げ知らせていた。

17 それから彼は、「わたしが見ているこの記念碑は何だ」と言った。

町の男たちは彼に告げた。「それはユダから来て、あなたがベテルの祭壇に対して行ったこれらのことを告げ知らせた神の人の墓です。」

18 彼は言った。「そのままにしておけ。だれも彼の骨を動かしてはならない。」そこで彼らは、サマリアから来た預言者の骨とともに、彼の骨をそのままにしておいた。

19 イスラエルの王たちが造って主を怒らせた、サマリアの町々にあった高き所のすべての家も、ヨシヤは取り除き、彼がベテルで行ったすべてのことと同様にそれらに対して行った。

20 彼はそこにいた高き所のすべての祭司を祭壇の上で殺し、その上で人の骨を焼き、それからエルサレムへ帰った。

21 王はすべての民に命じて言った。「この契約の書に書かれているように、あなたがたの神、主に過越の祭りを守りなさい。」

22 イスラエルをさばいた士師たちの時代から、イスラエルの王たちの時代、およびユダの王たちの時代を通じて、このような過越の祭りが守られたことはなかったからである。

23 しかし、ヨシヤ王の第十八年に、この過越の祭りがエルサレムで主に対して守られた。

24 さらに、ヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム\*、偶像、およびユダの地とエルサレムで見られたすべての忌むべきものを取り除いた。祭司ヒルキヤが主の家で見つけた書物に書かれている律法の言葉を彼が確立するためであった。

25 彼より前に、彼のように心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従っ

\* 23:24 23:24 テラフィムは家の偶像であり、家の財産の相続権と関係していた可能性。

て主に立ち返った王はいなかった。また彼の後にも、彼のような者は起きなかった。

26 それにもかかわらず、主はその燃える大いなる激怒から立ち返られなかった。マナセが主を怒らせたすべての挑発のために、主の怒りはユダに向かって燃え上がっていたからである。

27 主は言われた。「わたしはイスラエルを取り除いたように、ユダもわたしの前から取り除き、わたしが選んだこの町エルサレムと、『わたしの名がそこにある』とわたしが言った家を捨てる。」

28 ヨシヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

29 彼の日々に、エジプトの王ファラオ・ネコがアッシリアの王に向かってユーフラテス川へ上って行った。ヨシヤ王は彼に立ち向かって行ったが、ファラオ・ネコは彼を見たとき、メギドで彼を殺した。

30 彼のしもべたちは、彼が死んだままメギドから戦車で彼を運び、エルサレムに連れて来て彼自身の墓に葬った。その地の民はヨシヤの息子エホアハズを取り、彼に油を注いで彼の父の代わりに王とした。

31 エホアハズは治め始めたとき二十三歳で、エルサレムで三か月間統治した。彼の母の名はハムタルといい、リブナのエレミヤの娘であった。

32 彼は彼の父祖たちが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。

33 ファラオ・ネコはハマトの地にあるリブラで彼を監獄につなぎ、彼がエルサレムで治めること

ができないようにした。そしてその地に銀百タラント<sup>†</sup>と金一タラントの罰金を課した。

**34** ファラオ・ネコはヨシヤの息子エリアキムを、彼の父ヨシヤの代わりに王とし、彼の名をエホヤキムと改めさせた。しかし彼はエホアハズを連れ去り、彼はエジプトへ行き、そこで死んだ。

**35** エホヤキムはファラオに銀と金を与えたが、彼はファラオの命令にしたがって銀を与えるためにその地に税を課した。彼はエジプトの王ファラオに与えるために、その地の民の各人から、その評価にしたがって銀と金を取り立てた。

**36** エホヤキムは治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで十一年間統治した。彼の母の名はゼビダといい、ルマのペダヤの娘であった。

**37** 彼は彼の父祖たちが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。

## 24

**1** 彼の時代に、バビロンの王ネブカドネザルが攻め上って来たので、エホヤキムは三年間彼のしもべとなった。その後、彼は向きを変えて彼に背いた。

**2** 主はカルデア人の略奪隊、アラム人の略奪隊、モアブ人の略奪隊、アンモンの子らの略奪隊を彼に対して送られた。主は彼らをユダに対して送り、これを滅ぼそうとされた。主がそのしもべである預言者たちを通して語られた言葉のとおりであった。

**3** 確かに主の命令によってこの事がユダに起こった。それは彼らを御前から取り除くためであり、マナセが犯したすべての罪のため、

<sup>†</sup> **23:33 23:33** 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

4 また彼が流した罪のない血のためであった。彼がエルサレムを罪のない血で満たしたので、主は赦そうとはされなかった。

5 エホヤキムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

6 エホヤキムは父祖たちとともに眠りにつき、その息子エホヤキンが彼に代わって王となった。

7 エジプトの王は二度と自分の国から出て来なかった。バビロンの王がエジプトの川からユーフラテス川に至るまで、エジプトの王に属するすべてのものを奪い取っていたからである。

8 エホヤキンは治め始めたとき十八歳で、エルサレムで三か月間統治した。彼の母の名はネフシュタといい、エルサレムのエルナタンの娘であった。

9 彼は父が行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。

10 その時、バビロンの王ネブカドネザルのしもべたちがエルサレムに攻め上って来て、町は包囲された。

11 そのしもべたちが町を包囲している間に、バビロンの王ネブカドネザルが町にやって来た。

12 ユダの王エホヤキンは、彼と、その母と、そのしもべたちと、その君主たちと、その役人たちとともにバビロンの王のところに出て行った。バビロンの王は、その治世の第八年に彼を捕らえた。

13 主が言われていたように、彼はそこから主の家のすべての宝物と王の家の宝物を運び出し、イスラエルの王ソロモンが主の神殿に造ったすべての金の器を切り刻んだ。

14 彼はエルサレムのすべての者、すべての君主、すべての勇士、すなわち一万人の捕虜、およびすべての職人と鍛冶屋を捕らえ移した。そ

の地の民の最も貧しい者たちのほかには、だれも残されなかった。

15 彼はエホヤキンをバビロンへ捕らえ移した。また、王の母、王の妻たち、彼の役人たち、その地の有力者たちを、彼はエルサレムからバビロンへ捕らえ移した。

16 バビロンの王は、七千人のすべての勇士と、一千人の職人や鍛冶屋、すなわち戦いに適したすべての力強い男たちを、捕虜としてバビロンに連れて行った。

17 バビロンの王はエホヤキンの父の兄弟であるマタヌヤを彼の代わりに王とし、その名をゼデキヤと改めさせた。

18 ゼデキヤは治め始めたとき二十一歳で、エルサレムで十一年間統治した。彼の母の名はハムタルといい、リブナのエレミヤの娘であった。

19 彼はエホヤキムが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。

20 主の怒りによって、主が彼らを御前から投げ捨てるまで、この事がエルサレムとユダに起こったのである。ゼデキヤはバビロンの王に背いた。

## 25

1 彼の治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネザルが、彼とその全軍勢とともにエルサレムに対して攻め上り、それに対して陣を敷いた。そして彼らはその周囲に土塁を築いた。

2 こうして町はゼデキヤ王の第十一年まで包囲された。

3 第四の月の九日に、町にききんが激しくなり、その地の民のためのパンがなくなった。

4 その時、町が破られ、すべての戦士たちは夜の間に、王の園のそばにある二つの城壁の間にある門の道を通して逃げた（カルデア人は町の周囲にいた）。そして王はアラバの道を通って行った。

5 しかし、カルデア人の軍勢は王を追跡し、エリコの平野で彼に追いついた。彼の全軍勢は彼から散り去っていた。

6 彼らは王を捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れて上った。そして彼らは彼にさばきを下した。

7 彼らはゼデキヤの目の前でゼデキヤの息子たちを殺し、ゼデキヤの目をえぐり出し、青銅の足枷で彼を縛ってバビロンへ連れて行った。

8 さて、第五の月の七日、すなわちバビロンの王ネブカドネザルの第十九年に、バビロンの王のしもべである護衛兵の長ネブザルアダンがエルサレムに来た。

9 彼は主の家と王の家を焼き、エルサレムのすべての家、すなわちすべての大きな家を火で焼いた。

10 護衛兵の長とともにいたカルデア人の全軍勢は、エルサレムの周囲の城壁を打ち壊した。

11 護衛兵の長ネブザルアダンは、町に残されていた民の残りの者と、バビロンの王に降伏して離反した者たちと、群衆の残りの者を捕らえ移した。

12 しかし、護衛兵の長は、ぶどう畑と畑で働かせるために、その地の最も貧しい者たちを残した。

13 カルデア人は主の家にあった青銅の柱と、主の家にあった台座と青銅の海を打ち砕き、その青銅をバビロンへ運んだ。

14 彼らはまた、鍋、十能、芯切りばさみ、さじ、および彼らが奉仕に用いていたすべての青銅の器を奪い去った。

15 護衛兵の長は火皿と鉢を取り、金でできたものは金として、銀でできたものは銀として奪い去った。

16 ソロモンが主の家のために造った二本の柱、一つの海、そして台座については、これらすべての器の青銅は量りきれなかった。

17 一本の柱の高さは十八キュビト\*であり、その上に青銅の柱頭があった。柱頭の高さは三キュビトであり、柱頭の周囲にある網とざくろはすべて青銅であった。二本目の柱もその網とともにこれと同じであった。

18 護衛兵の長は祭司の長セラヤと、第二位の祭司ゼファニヤと、三人の門を守る者たちを捕らえた。

19 彼は町から、戦士たちを統率していた一人の役人と、町で見つかった王の側近の五人の男と、その地の民を召集した軍の長である書記官と、町で見つかったその地の民六十人を捕らえた。

20 護衛兵の長ネブザルアダンが彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ彼らを連れて行った。

21 バビロンの王はハマトの地にあるリブラで彼らを打って殺した。こうしてユダは自分の地から捕らえ移された。

22 ユダの地に残された民、すなわちバビロンの王ネブカドネザルが残した民について言えば、彼はシャファンの息子アヒカムの息子ゲダルヤを彼らの上の総督とした。

23 すべての軍の長たち、すなわち彼らとその部下たちは、バビロンの王がゲダルヤを総督としたことを聞くと、彼らはミツパのゲダルヤのところ

\* 25:17 25:17 一キュビトは成人男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメー

に来た。すなわちネタヌヤの息子イシュマエル、カレアの息子ヨハナン、ネトファ人タンフメテの息子セラヤ、マアカ人の息子ヤアザヌヤ、彼らとその部下たちである。

24 ゲダルヤは彼らと彼らの部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデア人のしもべたちを恐れてはならない。この地に住み、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたにとって良いこととなる。」

25 しかし、第七の月に、王族の出身であるエリシヤマの息子ネタヌヤの息子イシュマエルが、十人の男たちとともにやって来て、ゲダルヤを打ち殺した。またミツパで彼とともにいたユダヤ人やカルデア人も打ち殺した。

26 小さい者から大きい者まで、すべての民と軍の長たちは立ち上がり、エジプトへ行った。彼らがカルデア人を恐れたからである。

27 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されてから第三十七年、第十二の月の二十七日に、バビロンの王エビル・メロダクは、その治世の初めの年に、ユダの王エホヤキンを監獄から解放した。

28 彼はエホヤキンに優しく語りかけ、彼の王座をバビロンで彼とともにいた王たちの王座よりも高い所に置いた。

29 彼は囚人服を着替えさせた。エホヤキンは生涯のすべての日々において、常に王の前でパンを食べた。

30 彼への手当については、生涯のすべての日々において、日々の分として、王から絶えず手当が与えられた。

フリーダム・バイブル  
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom  
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は [eBible.org](http://eBible.org) です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を [ebible.org+jpnm@gmail.com](mailto:ebible.org+jpnm@gmail.com) までお寄せください。

2026-07-08

---

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424